

令和5年度「部活動の地域移行」推進事業 成果発表会

日時 令和6年2月7日(水)

9:30~11:00

会場 県生涯学習センター大研修室

次 第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 県教委からの説明 (9:35~9:45)
県教育庁保健体育課
指導主事(主幹) 宮崎 准二
- 4 モデル自治体の発表 (9:45~10:25)
 - (1) 玉野市
玉野市教育委員会 社会教育課
課長 寶藏 光辰
主幹 土田 健太
 - (2) 備前市
備前市文化スポーツ部地域移行課
課長 山本 敏博
副参事 岡田 真理
 - (3) 和気町
和気町教育委員会 学校教育課
課長代理 大河原 崇視
和気町教育委員会 社会教育課
課長補佐 日笠 将吾
 - (4) 早島町
早島町教育委員会 学校教育課
指導係長 赤堀 恵一
早島町教育委員会 生涯学習課
課長 吉見 一成
- 5 情報交換・質疑応答 (10:25~10:55)
- 6 閉 会 (10:55~11:00)

令和5年度「部活動の地域移行」推進事業成果発表会開催要項

- 1 目的 「部活動の地域移行」推進事業に係る、令和5年度モデル自治体での実証研究で得られた成果や課題を広く県内に普及するために発表会を行い、休日の学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行の推進に資する。
- 2 日時 令和6年2月7日（水）9：30～11：00
- 3 場所 岡山県生涯学習センター【会場：大研修室 定員：150名】
- 4 方法 参集形式（後日、YouTubeでの動画配信を予定）
- 5 参加対象 (1) 市町村教育委員会関係者
(2) 市町村スポーツ・文化主管課担当者 等
※定員になり次第、申し込みを締め切りますので、先着順といたします。

- 6 日程・内容 (1) 県教委からの説明
県教育庁保健体育課 指導主事（主幹） 宮崎 准二
・国、県の動向
・県の来年度以降の取組
(2) モデル自治体の発表
玉野市、備前市、和気町、早島町
(3) 情報交換・質疑応答
※モデル自治体ごとに、情報交換・質疑応答スペースを設置
- 9:30 9:35 9:45 10:25 10:55 11:00

開会行事 (5分)	県教委説明 (10分)	モデル自治体発表 (40分)	情報交換・質疑応答 (30分)	閉会行事 (5分)
--------------	----------------	-------------------	--------------------	--------------

7 参加申込等

- ・下記の URL または二次元バーコードからアクセスの上、オンライン（Google フォーム）で1名ずつ申し込み願います。
- ・申し込み内容は、本発表会以外の目的で使用することはありません。
- ・申し込み締め切り：令和6年1月31日（水）17：00

URL : <https://forms.gle/RErdYT4MUEdyYtiw9>



8 お問い合わせ先

岡山県教育庁保健体育課 指導主事（主幹）宮崎准二
TEL (086) 226-7592 FAX (086) 226-3684
E-mail: jiyunji_miyazaki@pref.okayama.lg.jp

令和5年度「部活動の地域移行」 推進事業の取組まとめ

～岡山県教育委員会～

目次

- 1 令和4年度までに明らかになった課題
- 2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組
- 3 円滑な実施に向けた令和5年度モデル市町の取組
- 4 県教委の地域クラブ活動への移行に向けての考え方

1 令和4年度までに明らかになった課題

○昨年度までの「地域部活動推進事業」や市町村教育長会、校長会等との情報交換会で明らかになった主な課題

	主な課題	内 容 等
①	関係者の理解	・市町村、学校、生徒、保護者、関係団体（スポ少、総合型地域スポーツクラブ等）との共通理解
②	実施主体の確保	・実施主体となり得る地域におけるスポーツ団体等の確保 ↳ スポ少、総合型地域スポーツクラブ、文化芸術団体、競技団体への登録チーム、新たな団体の設立、企業や大学との連携 など
③	指導者の質の保障、量の確保	・地域におけるスポーツ・文化芸術活動の指導者の確保 ・指導者研修（体罰、ハラスメント等の根絶）の実施 ・指導を希望する教師等の在り方（兼職兼業等）
④	施設の確保	・学校施設、民間施設等の利用・管理（鍵の管理等）
⑤	大会の在り方	・参加資格の見直し、大会引率や運営に係る教師負担の軽減
⑥	費用負担（指導者の謝金、運営費、保険）	・保護者等の理解、経済的に困窮する家庭の生徒への支援 ・指導者等の謝金に対する支援
⑦	危機管理（安全確保等）	・緊急時の連絡体制（個人情報への扱い）

2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

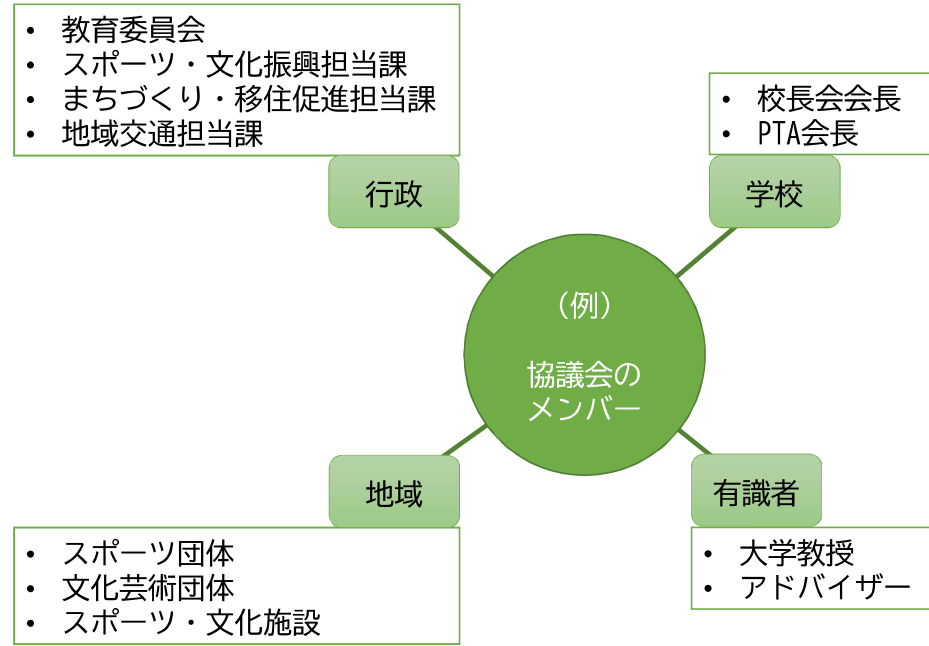
実施市町村	主担当課	対象中学校	対象となる活動
 玉野市	玉野市教育委員会社会教育課	7校	バスケットボール、陸上、軟式野球、吹奏楽、茶道、書道
 備前市	備前市文化スポーツ部地域移行課	5校	陸上、サッカー、剣道、アーチェリー、吹奏楽、ゆるスポ
 和気町	和気町教育委員会学校教育課・社会教育課	2校	ソフトテニス、陸上、バスケットボール、武道（剣道）、吹奏楽
 早島町	早島町教育委員会社会教育課	1校	軟式野球、ソフトテニス、剣道、卓球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、吹奏楽

2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

① 関係者の理解



まずは行政が主体となって、協議会を開催して数多くの関係者の理解を得る



和気町

部活動の地域移行に向けた検討委員会(令和4年9月から5年1月まで計4回開催) ※うち第2回~4回は県教委から「地域移行支援コーディネーター」を招聘

参加者

- 和気町スポーツ協会会長(和気町スポーツ少年団本部長)
- 総合型スポーツ和気クラブ理事長・理事
- 佐伯中学校長
- 和気中学校長
- 教育長
- 教育次長(社会教育課長)
- 学校教育課長
- まち経営課長(移住推進室長)
- 総務課危機管理室長

事務局: 学校教育課・社会教育課

指導者やそれに準ずる役割を担う方を、子育て世代移住者の中から発掘したい!

地域スポーツ・文化活動を行う場所までの交通手段として町営バスを使いたい!

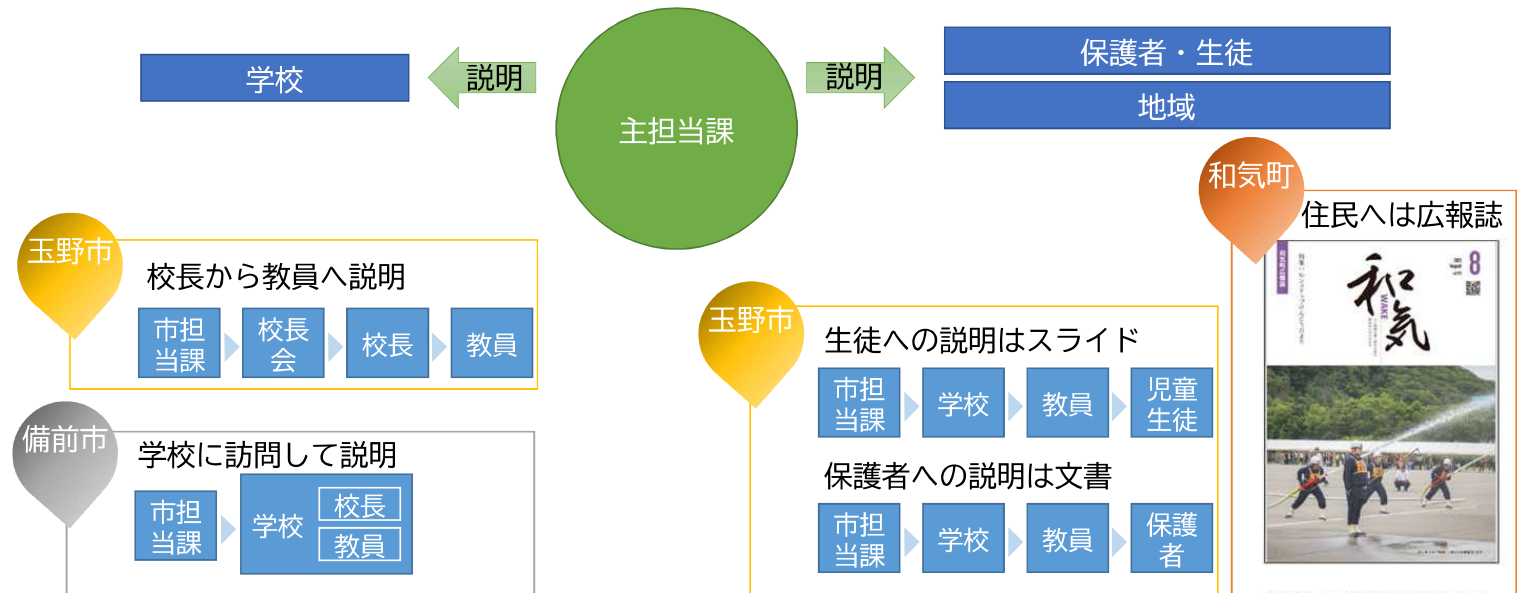
- 地域移行に向けた課題の洗い出し
- 出てきた課題に対し、県教委が委嘱する「地域移行支援コーディネーター」からの専門的助言
- 総合型スポーツ和気クラブを中心とした受け皿の整備

2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

① 関係者の理解



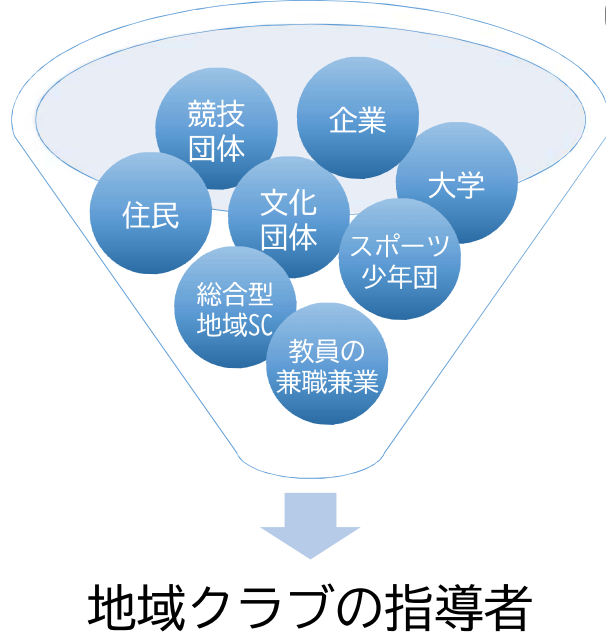
対面、文書、スライド、広報誌等、相手に応じた方法で説明



2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

- ② 実施主体の確保
- ③ 指導者 (量の確保)

地域のリソースの把握



備前市

陸上	→ 備前市陸上競技連盟
剣道	→ 剣道連盟
アーチェリー	→ 総合型地域SCアーチェリー部
吹奏楽	→ 備前プラスバンドクラブ
ゆるスポ	→ 環太平洋大学

早島町

学校部活動にない活動

バドミントン
少林寺

指導者の確保に向けた説明

- NG** 学校の先生の代わりに部活を指導してください
中学生を指導できる方を求めています
- OK** そちらの活動に中学生が参加してもよいですか
中学生と一緒に活動を楽しむ方を求めています

発想の転換

- NG** この部活動と同じ活動ができる団体はあるか
- OK** うちの地域ではどんなスポーツ・文化活動があるか

2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

- ③ 指導者 (質の保障) → 地域クラブ指導者向けの研修の実施

スポーツ・文化
振興担当課
or
運営団体

研修

地域クラブの指導者

- ・ 適切な休養、活動時間
- ・ 体罰、ハラスメントの防止
- ・ 特別支援教育の視点
- ・ 著作権

13:30～ 開会行事
13:40～14:25 「スポーツにおける**体罰・ハラスメント防止**」
IPU環太平洋大学 体育学部体育学科メンター 前田 誠一 氏
14:40～15:25 「**中学生期のトレーニング**」
IPU環太平洋大学 体育学部体育学科 講師 江波戸 智希 氏
15:50～16:35 「**特別支援の視点を踏まえたスポーツ指導**」
IPU環太平洋大学 体育学部体育学科 講師 白石 翔 氏
16:50～17:00 全体を揃いおたけい

和気町

令和5年度 和気町
部活動の地域移行に関する
指導者研修会

【期日】 令和5年11月26日(日) 13:30～17:00
【場所】 『学び継げエスタ大会議室 和気郡和気町父科第400号』
【対象者】 『学び継げエスタ大会議室 和気郡和気町父科第400号』
・総合型スポーツ振興クラブ指導者
・中学生が所属する団体の指導者
・和気町スポーツ少年団指導者
・小中学生が所属する団体の指導者
・和気町立小中学校教職員 その他参加を希望する者

【研修内容】
13:30～ 開会行事
13:40～14:25 「スポーツにおける**体罰・ハラスメント防止**」
IPU環太平洋大学 体育学部体育学科メンター 前田 誠一 氏
14:40～15:25 「**中学生期のトレーニング**」
IPU環太平洋大学 体育学部体育学科 講師 江波戸 智希 氏
15:50～16:35 「**特別支援の視点を踏まえたスポーツ指導**」
IPU環太平洋大学 体育学部体育学科 講師 白石 翔 氏
16:50～17:00 全体を揃いおたけい

【講師】
前田 誠一 氏
江波戸 智希 氏
白石 翔 氏

【申込方法】
参加希望の方は、下記QRコードから必ず事項を入力してください。
※切：11月12日(日)

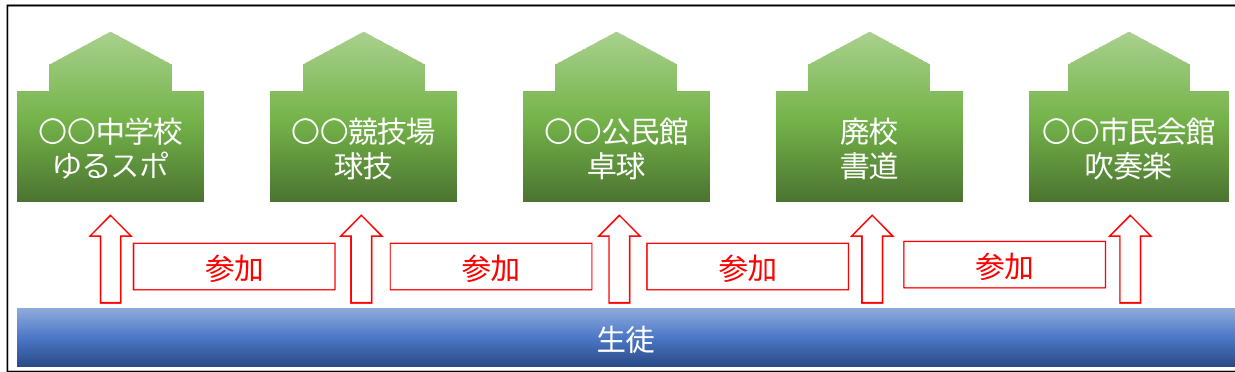
和気町教育委員会 和気町教育委員会事務局
〒709-0511 和気郡和気町父科300番地 TEL:0899-388-1115

2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

④ 施設の確保



拠点施設方式にして活動場所を集約
社会教育施設、学校施設の活用



必要な施設数
必要な指導者

減

玉野市

- 軟式野球 → 拠点施設（山田中）
- 陸上 → 拠点施設（荘内中→八浜中→宇野中→玉中）
- バスケットボール → 拠点施設（宇野中、日比中）
- 吹奏楽 → 拠点施設（宇野中）
- 書道 → 拠点施設（玉野市中央公民館）
- 茶道 → 拠点施設（玉野市中央公民館）

和気町

- ソフトテニス → 拠点施設（和気鶴飼谷温泉）
- 陸上 → 拠点施設（佐伯中、和気小）
- バスケットボール → 拠点施設（和気町体育館）
- 武道（剣道） → 拠点施設（和気武道館）
- 吹奏楽 → 拠点施設（旧和気小）

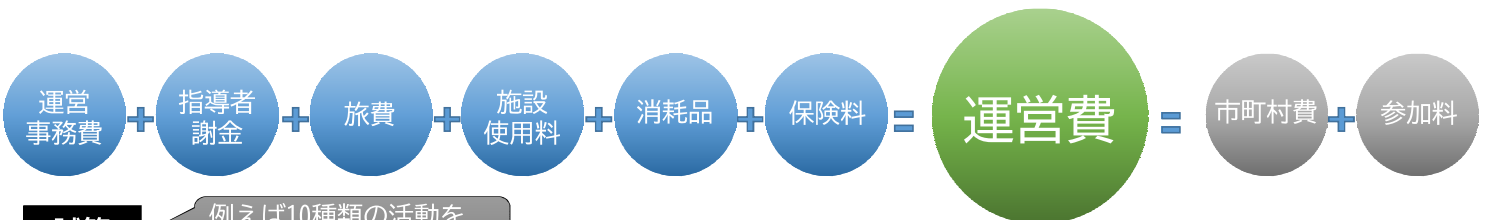
廃校
活用

2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

⑥ 費用負担



持続可能な取組に向けて受益者負担の検討
市町村費で予算支援



試算

例えば10種類の活動を
毎週実施したとすると...

(支出)						(収入)			
運営事務費	1,000円	4時間	50日	1人	200,000円				
指導者謝金	1,600円	4時間	50日	10人	3,200,000円				
旅費	200円		50日	10人	100,000円				
施設使用料	1,000円	1回	50日	1活動	50,000円				
消耗品					100,000円				
保険料（生徒）	800円			50人	40,000円	市町村費			1,908,500円
保険料（指導者）	1,850円			10人	18,500円	参加料	3,000円	12月	50人
合計					3,708,500円	合計			3,708,500円

2 課題に対する令和5年度モデル市町の取組

⑦ 危機管理（緊急時の連絡体制） → ICTの活用を！

NG 学校経由の連絡

OK 地域クラブ独自で
連絡方法を確立
※個人情報の取扱い要注意



活動スケジュールの共有
出欠の連絡
事故など緊急時の連絡

玉野市

一人一台端末を活用

Google classroom → 開催内容を周知

Google Forms → 申し込み

和気町

チラシの二次元コード



3 円滑な実施に向けた令和5年度モデル市町の取組

円滑な実施に向けて → 関係者間の密な連絡
事務局の役割分担

市町村を
挙げて取り組む

主担当課だけの推進は無理

関係者間の密な連絡
→ 定期的な情報共有の場を確保！

事務局の役割分担
→ 誰が何をするのか明確に！

和気町

Googleスプレッドシート
グループLINE

日程調整 意見表明

和気町

学校教育課

- ・ 企画
- ・ 学校との交渉・調整

社会教育課

- ・ 会計
- ・ スポーツ・文化団体との交渉・調整

3 円滑な実施に向けた令和5年度モデル市町の取組

円滑な実施に向けて ➡ 移行期においては必要に応じて学校と連携を！
できるところから確実に前進！

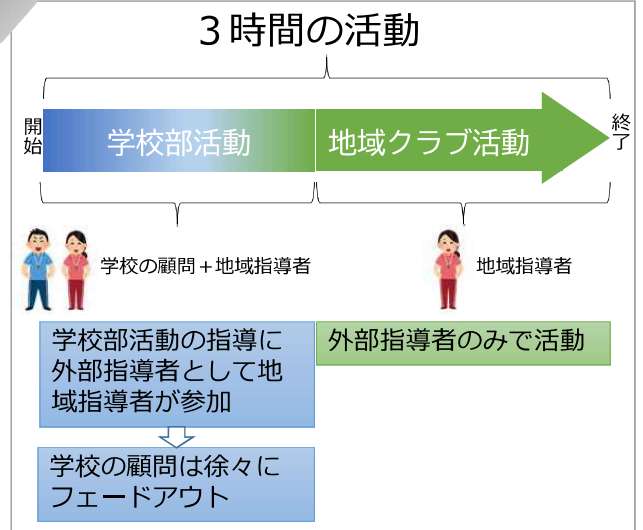
生徒、地域指導者の不安の解消のためにソフトランディング



一度にすべてを完了しなくても大丈夫

- ・できる活動から開始
- ・期間・回数を区切って試行

備前市



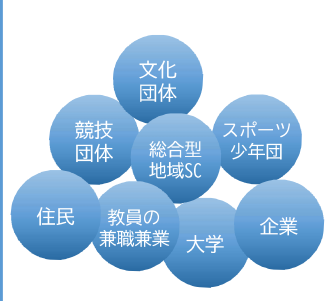
4 県教委の地域クラブ活動への移行に向けての考え方

STEP 1 地域の資源の把握 ➡ STEP 2 まずは地域クラブ活動をはじめてみる

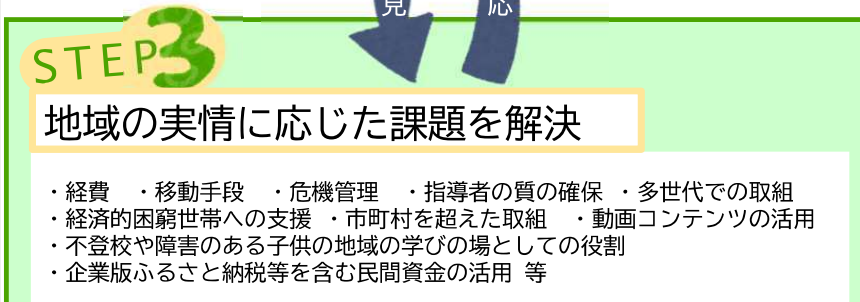
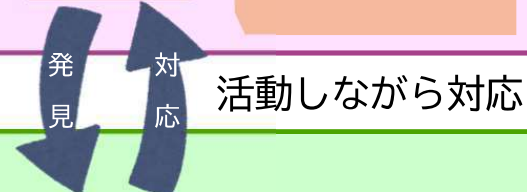
学校部活動の現状



団体・指導者のリソース



活動場所のリソース



地域スポーツクラブ活動体制整備事業等

令和6年度予算額 (案) 2,738,192千円
 (前年度予算額 2,470,899千円)

令和5年度補正予算額 1,431,951千円

方向性・目指す姿

- ✓ 地域の実情に応じた持続可能な多様なスポーツ環境を整備し、多様な体験機会を確保。
- ✓ 少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保。学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。
- ✓ 自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展・新しい価値の創出。

事業内容

I. 地域クラブ活動への移行に向けた実証事業

10億円 (10億円) 委託・拡充
 14億円 [令和5年度補正予算額]

各道府県・市区町村の地域スポーツの推進体制等の下で、コーディネーターの配置を含む運営団体・実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等に関する実証事業を実施し、国において事業成果の普及に努めるとともに、全国的な取組を推進する。

(1) 地域クラブ活動への移行に向けた実証 ※取組例

- 体制整備**
 - 関係団体・市区町村等との連絡調整
 - コーディネーターの配置、地域学校協働活動推進員等との連携の在り方
 - 運営団体・実施主体の体制整備や質の確保
- 指導者の質の保障・量の確保**
 - 人材の発掘、マッチング・配置
 - 研修、資格取得促進
 - 平日・休日の一貫指導
 - ICTの有効活用
- 関係団体・分野との連携強化**
 - スポーツ協会、競技団体、大学、企業等
 - スポーツ推進委員、地域おこし協力隊
 - まちづくり、地域公共交通

面的・広域的な取組

- 複数種目、シーズン制
- 地域クラブ活動の拡大
- 市区町村等を超えた取組
- 参加費用負担の支援
- 効果的な活用や管理方法

※ 実証事業2年目となる地域クラブ活動は、原則、国費だけではなく、一定の割合の受益者負担や行政、関係団体の自主財源からの支出、企業等からの寄付などの組み合わせにより、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築し、検証。

※ 平日・休日の一貫指導や市区町村を超えた取組など、地域の実情に応じた最適化・体験格差の解消を図る意欲的な取組を充実。

★ 重点地域における政策課題への対応

地域スポーツ環境の整備に先導的に取り組む地域を重点地域として指定し、政策課題への対応を推進する。

- ＜主な政策課題＞
- 多様なスポーツ体験の機会の提供
 - 高校との連携やジュニアからシニアまでの多世代での取組
 - スクールバスの活用や地域公共交通との連携
 - 不登校や障害のある子供たちの地域の学びの場としての役割
 - トレーナーの活用を含めた安全確保の体制づくり
 - 企業版ふるさと納税等を含む民間資金の活用

(2) 課題の整理・検証、地域クラブ活動のモデル・プロセスの分析、地域クラブ活動の整備促進等

- 事業成果の普及方策、地域クラブ活動の整備の進展に伴う新たな課題の整理・解決策の検討
- 運営形態の類型や競技ごとの地域クラブ活動のモデル・プロセス、組織マネジメント等の分析・検証
- 単一自治体での対応が困難な場合の地域クラブ活動の整備促進方策の検討 等

※1 補助割合について、都道府県又は指定都市の場合は、国1/3、都道府県・指定都市2/3。

※2 コミュニティスクール(学校運営協議会)等の仕組みも活用。

II. 中学校における部活動指導員の配置支援

15億円 (12億円) 補助・拡充
 各学校や拠点校に部活動指導員を配置し、教師に代わる指導や大会引率を担うことにより、生徒のニーズを踏まえた充実した活動とする。(補助割合：国1/3、都道府県1/3、市区町村1/3) ※1

部活動指導員の配置を充実 (13,000人)

III. 地域における新たなスポーツ環境の構築等

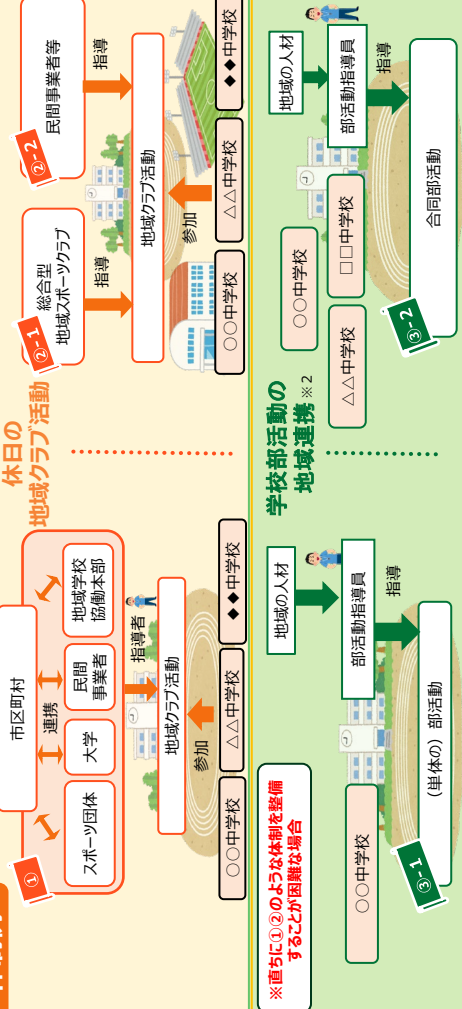
補助・委託

上記の施策を支える新たなスポーツ環境の構築等のため、以下の取組を実施。
 ・公立中学校の施設の整備・改修を支援(用具保管の倉庫設置、スマートロック設置に伴う扉の改修等)
 ・指導者養成のための講習会や暴力等の根絶に向けた啓発活動の実施等。
 ・大学生が卒業後も継続的に地域の中学生の指導に当たる仕組みを構築。
 ・デジタル動画を活用した部活動・地域クラブ活動のサポート体制の構築(ポータル新設)

方向性



体制例



* 本資料における「スポーツ」には障害者スポーツを、「中学校」には特別支援学校(中学校)等を含む。体制例は、あくまでも一例である。

(担当：スポーツ庁地域スポーツ課)

【玉野市】 令和5年度「部活動の地域移行」推進事業成果発表会

自治体名	玉野市
担当課名	教育委員会 社会教育課
電話番号	0 8 6 3 - 3 2 - 5 5 7 7
メールアドレス	syakaikyoiu@city.tamano.lg.jp

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	約55,000人	部活動数	運動部：41部活 文化部：12部活
公立中学校数	7校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	1,151人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定しない

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

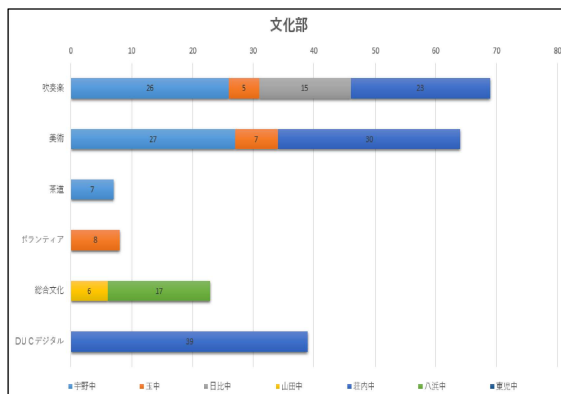
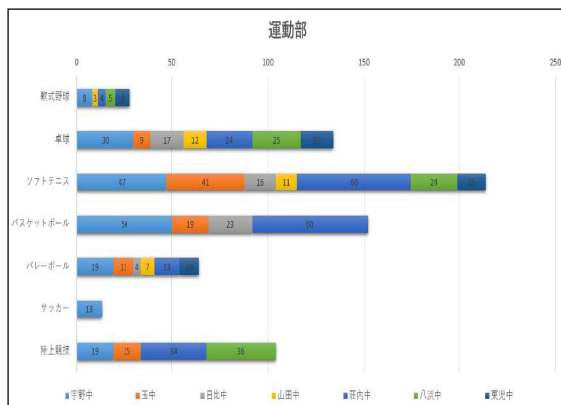
- (運動部) ・軟式野球 ・卓球 ・ソフトテニス ・バスケットボール ・バレーボール ・サッカー ・陸上競技 (合同) ・軟式野球 (市内5校)
 - ・バレーボール (男子：岡山市高島中学校) (女子：市内2校)
 - ・サッカー (岡山市立芳田中学校)
- (文化部) ・吹奏楽 ・美術 ・茶道 ・ボランティア ・総合文化 ・DUCデジタル (合同) ・吹奏楽 (市内2校)

- ・単独で部活動が成立していない種目もある。
- ・部活動の地域移行に向けて、検討委員会を設置。

【課題】

- ・教員、保護者、生徒への説明 ・受益者負担の検討 ・会場確保、生徒輸送手段の確保
- ・希望する教員の兼職兼業の許可 ・対象中学校、対象部活動の選定
- ・保険会社との提携 ・指導者の配置、休日の部活動の地域クラブ活動の開始

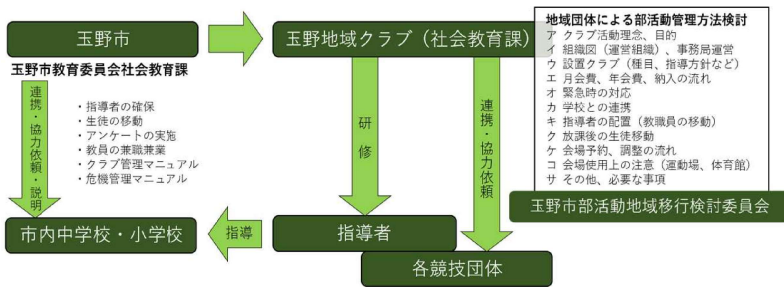
※部活動の地域移行に向けて、動き始めたばかりのため、市民（教員、保護者、生徒を含む）の認知度が低い状態。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- 教育委員会（社会教育課）
 - ・計画
 - ・立案
 - ・連絡調整
 - ・実行
- 首長部局（総合政策課、協働推進課）
 - ・総合政策課：組織体制の構築
 - ・協働推進課：地域との連携強化

年間の事業スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
検討委員会設置		第一回実証研究連絡会	ヒアリング ・校長 ・部活動顧問 実証事業の企画 ・課内検討 ・関係団体との調整 ・指導者の確保 ・実施体制の整備			第二回実証研究連絡会	第一回検討委員会	実証事業 第三回実証研究連絡会	成果発表会	第二回検討委員会

3

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

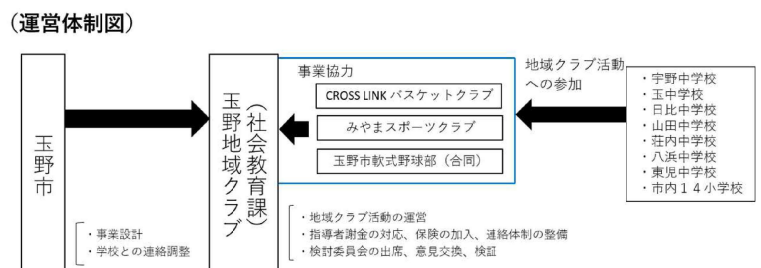
拠点校数	6校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	バスケットボール、陸上競技、軟式野球
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	15部活		

主な取組例 ※注1

▼活動概要

拠点校名	玉野市立宇野中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	
地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営主体名	CROSS LINK バスケットクラブ
運営類型 ※注2	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1か月あたりの平均的な活動回数	月2回程度
指導者の主な属性	民間事業者（実証事業を受託している事業者）
活動場所	玉野市立宇野中学校、日比中学校体育館
主な移動手段	保護者の自家用車で送迎、自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（年額） ※注3	2,400円/年
1人あたりの保険料	○行事（レクリエーション）参加者傷害保険 生徒1人あたり：約100円/回 ○団体総合生活補償保険 指導者1人あたり：約740円/人（4ヶ月間）

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



4

2. 実証内容と成果

地域文化芸術クラブ活動の運営実績

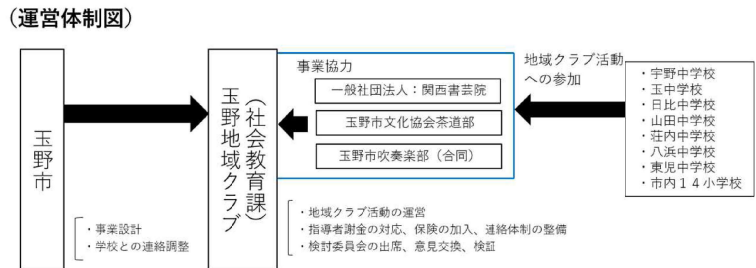
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	吹奏楽、茶道、(書道)
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	5部活		

主な取組例 ※注1

▼活動概要

拠点校名	玉野市立宇野中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	
地域クラブ活動で実施した種目	茶道
運営主体名	玉野市文化協会 茶道部
運営類型 ※注2	市区町村運営型(地域団体・人材活用型)
1か月あたりの平均的な活動回数	月1回程度
指導者の主な属性	民間事業者(実証事業を受託している事業者)
活動場所	玉野市立中央公民館
主な移動手段	保護者の自家用車で送迎、自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等(年額) ※注3	6,000円/年
1人あたりの保険料	○行事(レクリエーション)参加者傷害保険 生徒1人あたり:約100円/回 ○団体総合生活補償保険 指導者1人あたり:約740円/人(4ヶ月間)

▼運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



5

2. 実証内容と成果

ア: 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ: 指導者の質の保証・量の確保
ウ: 関係団体・分野との連携強化
エ: 面的・広域的な取り組み
オ: 内容の充実
カ: 参加費用負担の支援等
キ: 学校施設の活用等
ク: その他の取組

取組内容

▼取組項目名: ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

玉野市部活動地域移行検討委員会及び部活動地域移行推進チームを立ち上げ、玉野市として部活動地域移行に向けた検討を開始した。国の示すスケジュールに従い、令和5年度から令和7年度までを改革推進期間とし、令和8年度に休日の部活動の地域移行完了を目指すこととした。

取組の成果

玉野市部活動地域移行検討委員会メンバーとしては、学識者、中学校長、PTA、スポーツ少年団、スポーツ協会、スポーツ推進委員、総合型スポーツクラブ、文化協会、図書館・中央公民館、市役所関係課で組織し、それぞれが情報共有、協議が行える体制とした。
実事業実施にあたり、検討委員会開催までに時間を要したため、当初予定していたコーディネーターは設置することが出来なかった。

対象者	児童・生徒数	登録者数	登録率
小学校(5・6年)	768	280	36%
中学校(1・2年)	756	54	7%

令和5年度 部活動地域移行連絡ツール登録者数(『Googleクラスルーム』)

特に工夫した事項

実証事業については、中学生に加え、小学5・6年生も対象として活動を実施した。活動の周知や参加申込は、市内全児童・全生徒にタブレット端末を配布していることから、googleクラスルーム、googleフォームを活用した。
Googleクラスルーム、Googleフォームは、市内全小・中学校で日常的に扱っているため、操作性・利便性を考慮して、今回の連絡ツールとして採用した。
しかし、任意の登録としたこともあり、登録率が小学校で36%、中学校で7%に留まった。

今後の課題と対応方針

引き続き、玉野市部活動地域移行検討委員会を主体として検討、協議を進め、地域移行した後の運営団体・実施主体、また、参加申込方法などの管理体制(例えば、部活動支援アプリの導入など)について検討を行う。

6

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み
 オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

実証事業の実施にあたり、各部活動の顧問や関係団体と連携し、各種競技や文化分野に精通した方を講師として依頼した。
 ・バスケットボール：市内でクラブ運営をしているCROSSLINKに依頼
 ・吹奏楽：市内在住で玉野市の音楽業界に明るい現職校長に依頼
 ・陸上競技：みやまスポーツクラブに講師派遣の依頼
 ・茶道：玉野市文化協会茶道部の代表に依頼
 ・軟式野球：合同チームの代表顧問に依頼
 ・書道：一般社団法人、関西書芸院の講師に依頼

取組の成果

現在の部活動においては、顧問である教諭がその部活動に精通していない場合も多く、アンケート結果では「普段の部活動より楽しかった。良い経験ができた」といった感想が多くあり、生徒としては楽しむことに加え、一定程度の専門的な指導、技術向上を求めていることが分かり、今後の運営体制構築の参考となった。



陸上競技の活動記録 令和5年12月2日

特に工夫した事項

指導者の選任にあたっては、実際に教室を開催している総合型スポーツクラブや文化団体に協力を求めることで、各種競技や文化分野に精通した方を紹介してもらうことができた。



バスケットボールの活動記録 令和5年12月23日

今後の課題と対応方針

部活動地域移行にあたっては、指導者の確保が課題の一つであるため、今後、人材の掘り起こしや、各種競技や文化分野において指導者を公募するなどして、玉野市における人材バンクの作成を計画する。

7

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み
 オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

玉野市内のスポーツ団体や文化団体、校長会、部活動顧問に対し、玉野市においても部活動地域移行に向けた取り組みを開始したことを説明し、情報共有ならびに連携強化に努めた。

取組の成果

玉野市において部活動地域移行に向けた取り組みを開始したことを発信、周知することで、部活動地域移行に関心がある団体などからの問い合わせがあった。また、各種団体等と話をすることで、新たな受け皿となりうる活動（例えば、学校開放利用団体、公民館サークルなど）のヒントを得ることができた。

特に工夫した事項

実証事業を企画する際に、中体連玉野支部長（日比中学校長）、中吹連玉野支部長（宇野中学校長）、中文連玉野支部長（山田中学校長）に計画を相談。その後、各校の部活動顧問との面談を行った。現場の先生方の思いを参考にした上で、実施団体へ活動依頼をした。

今後の課題と対応方針

部活動地域移行にあたっての課題のひとつである指導者の確保について、各種団体等に指導者の推薦等依頼し、玉野市における人材バンク作成を計画する。

R04.03.17	岡山県関係 田也純運動部活動促進事業成果発表会」への参加【岡山県生涯学習センター】
R04.03.24	岡山県保健体育審判員講習会主事を迎えての中学校校長会での説明会【玉野中学校】
R04.05.18	中学校校長会との懇話会【玉野中学校】
R04.07.22	部活動地域移行に向けた第1回研修会【教育委員会内】
R04.10	市内アンケートの実施（生徒、保護者・教職員）
R04.04	岡山県関係 田也純研修説明会（第1回）への参加【岡山県立図書館】
R04.08.28	岡山県関係 田也純研修説明会（第2回）への参加【岡山県総合教育センター】
R04.09.29	部活動地域移行に向けた第2回研修会【教育委員会内】
R04.11.14	部活動地域移行促進事業推進員に向けた協議【八津中学校】
R04.11.21	部活動地域移行促進事業推進員に向けた協議【玉野中学校】
R05.1.28	玉野市立上音階地区部活動合同部活動推進員【玉野スポーツセンター】
R05.2.7	玉野市教育委員会にて本市の現状についての説明
R05.3	地区ごとの研修会にて本市の現状についての説明
R05.3.21	玉野市吹奏楽部合同コンサート【玉野市ショッピングモール・メルカ】
R05.3.28	第1回 玉野市吹奏楽部合同推進員協議会【玉野市体育館】
R05.5.8	玉野市の部活動地域移行の現状報告【岡山大学】
R05.5.18	岡山県関係「部活動」文化情報講座「玉野市の部活動地域移行の現状報告【玉野市体育館】
R05.6.7	第1回 実証研究連絡会【岡山県立図書館】
R05.7.11	部活動地域移行促進事業推進員に向けた協議【玉野中学校】
R05.7.14	部活動地域移行促進事業推進員に向けた協議【玉野中学校】
R05.7.20	部活動地域移行促進事業推進員に向けた協議【山田中学校】
R05.7.27	【市民の学校】部活動の地域連携・地域クラブへの移行に係る情報交換会【オンライン】
R05.10.12	第2回 実証研究連絡会【岡山県立図書館】
R05.10.13	部活動地域移行促進事業推進員に向けた協議【フレンドセンター】
R05.10.17	部活動地域移行促進事業推進員に向けた協議【玉野スポーツセンター】
R05.10.30	第2回 玉野市吹奏楽部合同推進員協議会【玉野中学校】
R05.11.9	協議会にて、玉野市の部活動地域移行の活性化について説明
R05.11.18	実証事業（バスケットボール①）玉野中学校
R05.11.21	第1回 玉野市吹奏楽部合同推進員協議会
R05.12.2	実証事業（陸上競技①）玉野中学校
R05.12.2	実証事業（バスケットボール②）山田中学校、（吹奏楽②）玉野中学校、（茶道）中央公民館
R05.12.18	実証事業（陸上競技②）八津中学校
R05.12.28	実証事業（バスケットボール③）山田中学校
R05.12.28	実証事業（陸上競技③）八津中学校
R05.1.13	実証事業（バスケットボール④）玉野中学校、（陸上競技④）玉野中学校
R05.1.18	第3回 実証研究連絡会【岡山県立図書館】
R05.1.20	実証事業（バスケットボール⑤）玉野中学校
R05.1.28	実証事業（軟式野球）山田中学校、（吹奏楽③）玉野中学校、（茶道）中央公民館

8

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み
 オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

一部実証校や地域を対象を絞るのではなく、全市的にクラブへの移行を検討していくために、次の2点を意識した。
 ①広報活動 ②開催場所

取組の成果

実証事業に参加した児童・生徒、保護者への認知度は上がったように感じる。
 また、スポーツ関係者からの問い合わせが多くなり、個別に面談を行った。

特に工夫した事項

①広報活動
 市の広報誌、市のHP、小学校5・6年、中学1・2年生への文書配付
 ②開催場所
 広域的な取組にするために6中学校を開催場所とした。(市内7中学校)

部活動の地域移行に取り組みます!
 本市では、国のガイドラインに基づき、令和8年度までに「休日」の部活動地域移行完了を目指します。
 ※休日の地域移行の進捗状況を検証した上で、「平日」の活動を段階的に地域へ移行していきます。

部活動の地域移行とは
 これまで学校(教員)が担ってきた部活動の指導を、地域のクラブ・団体などに移行することです。
 スポーツ庁と文化庁が令和4年12月に予定したガイドラインに基づき、令和5年度から3年かけて、まず公立中学校の「休日」の部活動を段階的に地域へ移行しようとするものです。

新活動の地域移行が進められる背景
 少子化による部活動の減少 教員の働き方改革

○生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化
 ○地域の持続可能な多様な環境を一体的に整備

部活動体制を見直し、地域クラブ活動へ移行
 地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる

社会教育課 ☎32-5577 市HP

『広報たまの』：玉野市広報誌(全戸配付)



実証事業開催進捗: https://www.gacomo.jp/search/p33/c204_public_jk/mao.html#進捗

今後の課題と対応方針

実証事業参加者の所属校を集計すると、生徒数の少ない学校、開催場所から移動距離の長い学校の児童生徒の参加が少なかった。全的に進めていくためにも、開催場所の選定、移動手段の確保について、検討していく必要がある。

9

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み
 オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

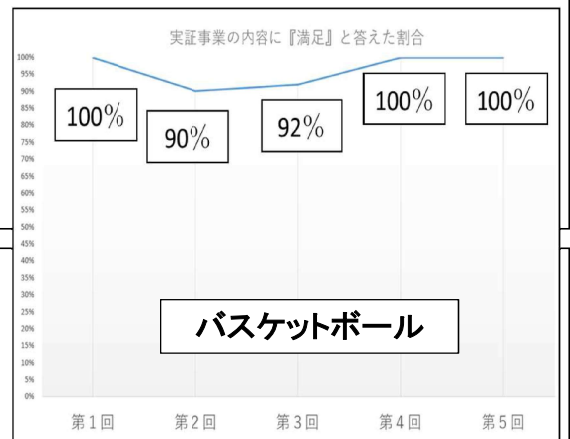
実証事業後、児童生徒からのアンケートを集計し、参加者の声を指導者に届け、次の活動に生かしてもらえるようにした。また、地域クラブ活動指導者、部活動指導者を対象とした研修会の開催案内を実証事業に携わる指導者に勧めた。

取組の成果

指導者に活動内容、指導方法等は、一任しているためアンケート結果を反映しているかどうかの確認には至らなかった。全5回開催したバスケットボールでは、メニューを変更したり、同じ活動でも難易度を参加者に合わせて変更している場面が見られた。右のアンケート結果にあるように、回を重ねても高い満足度をキープしているところから参加者にとって有益な活動であったことが伺える。
 研修会については、案内はしたものの、指導者の参加には、至らなかった。

特に工夫した事項

アンケート結果を迅速に指導者に届けるために、集計を急いだ。参加者にQRコードを提示し、Googleフォームを利用して回答してもらうことで、迅速に集約することができた。
 また、事前にメールアドレスを把握しておくことで、アンケート結果や研修会の案内、連絡事項等々、容易に連携することができた。



実証事業)参加者アンケート集計結果

今後の課題と対応方針

指導者との活動の事前・事後の打ち合わせを行うことで、次の活動をより充実したものにしていきたい。また、今回、実施報告書の提出を求めたが、その項目の中に、指導者自ら反省してもらえるようにシートを改善したい。
 指導者の資質向上のため、玉野市主催の研修会の開催を検討していきたい。

10

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

バスケットボール、陸上競技、軟式野球、吹奏楽、書道は、一律1回1000円、茶道は、1回500円の受益者負担を求めた。指導者の謝金を部活動指導員の1時間1,600円の単価と定めて実証事業を行った。指導者に、実施報告書を提出してもらうことで、活動時間、消耗品費を把握し、活動1回あたりの経費の概算を出すこととした。

取組の成果

実証事業を行った種目、メニューについては、1回あたり係る経費を概ね把握することができた。
 課題としては、指導者謝金の単価設定、参加人数の変動、保険の見直し（今回は、実証事業のため行事保険を採用）が挙げられる。運営方法によって、課題で挙げた点が大きく異なるので、今回の実証事業の結果は、一つの参考例と位置づけることとなる。

特に工夫した事項

地域クラブに移行していく中で、受益者負担は避けて通ることが困難であると考え。そこで、保護者には、部活動とは異なる活動であるので、保険料、指導者謝金、消耗品費に参加費を充てる旨の説明をした上で、参加してもらうこととした。
 受益者負担を求めていく中で、保護者に受益者負担の考えを理解してもらうようにした。

実証事業実施報告書		実証事業実施報告書	
第5回 バスケットボール		書道	
参加者数	30名	参加者数	6名
指導者数	3名	指導者数	1名
実施日時	10月10日(土) 10:00-12:00	実施日時	10月10日(土) 10:00-12:00
実施場所	宇野中学校 運動場	実施場所	中央公民館
経費	14,400円	経費	7,400円
受益者負担	480円/人	受益者負担	1,200円/人
※スポーツ安全保険	800円/年	※スポーツ安全保険	800円/年

今後の課題と対応方針

今回の実証事業では、補助金を活用して、経費の多くを捻出した。運営体制を確立し、『取組の成果』で挙げた課題への対応を明確にしていきたい。加えて、玉野地域クラブの運営費も必要となってくるので、受益者からの徴収以外の収入源を確保する方策が必要である。

11

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

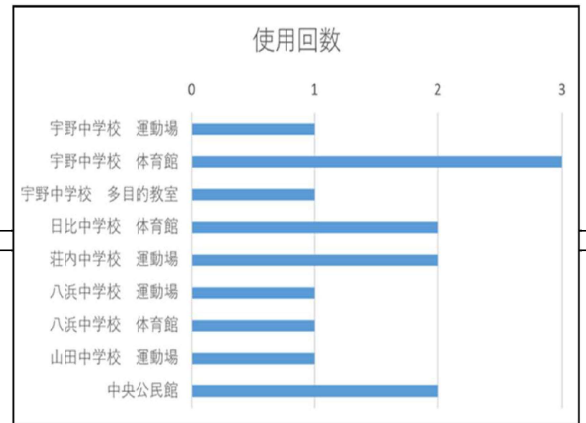
学校開放事業を用いて、市内の中学校を開催場所として使用した。また、茶道、書道については、玉野市中央公民館で活動し、減免対応をした。

取組の成果

玉野スポーツセンターやレクセンターなどのスポーツ施設の使用が困難なことが明らかとなったことで、各中学校、公民館を利用した。開催場所は、一カ所に固定することはできなかったが、場所を確保する際の費用は発生しなかった。

特に工夫した事項

- ・バスケットボール：玉野市の中心地の宇野中学校
参加人数の多い日比中学校
- ・陸上競技：現在、陸上部がある4中学校
- ・軟式野球：以前から合同練習をしている山田中学校
- ・吹奏楽：玉野市の中心地の宇野中学校
- ・茶道・書道：実施団体が使用している中央公民館



実証事業) 使用場所と使用回数

今後の課題と対応方針

今回の実証事業では、右上の表にある学校、施設で活動した。運動部では、同じ種目でも活動場所が多岐に渡ったため、事前の準備に苦労した。種目によって活動場所を限定する『拠点校方式』を検討していきたい。

12

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

<p>本日の実証事業の感想を教えてください。</p> <p>満足 81.0% やや満足 9.2% どちらでもない 0% やや不満 0% 不満 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○他校の人とできたのが楽しかった ○詳しく教えてもらった ○できなかったことができるようになった ○シュートやドリブルなどの基本的な練習ができた
<p>今後もこのような実証事業があれば参加したいと思いますか。</p> <p>とても思う 47.0% まあまあ思う 16% どちらでもない 0% あまり思わない 0% 思わない 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○もっと練習して上手になりたい ○もっと新しいことを身に付けたい ○他校の子と練習できる ○みんなで楽しめる △他校の人達と上手くコミュニケーションがとれない
<p>休日の部活動が地域移行した場合、参加したいと思いますか。</p> <p>とても思う 41% まあまあ思う 20% どちらでもない 0% あまり思わない 0% 思わない 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○もっと練習して上手になりたい ○部活動より良い経験をした ○いろいろな人と知り合える △他校の人達と上手くコミュニケーションがとれない

【実証事業（バスケットボール）参加者：アンケート結果（一部抜粋）】

背景①	背景②																																																
少子化による部活動の減少	教員の働き方改革																																																
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化 ・地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備 																																																	
<p>部活動体制を見直し、地域クラブ活動へ</p> <p>地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。</p>																																																	
<p>玉野市の部活動地域移行について</p> <p>令和8年度までに休日の部活動地域移行完了を目指します。</p> <p>【画の示す部活動地域移行のスケジュール】</p> <p>【休日の部活動地域移行のイメージ】 『まずは、休日から』</p> <table border="1"> <tr> <td>現在</td> <td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td><td>日</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="7" style="text-align: center;">部活動</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="7" style="text-align: center;">※2日以上(平日1日、休日1日)お休み</td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td><td>日</td> </tr> <tr> <td>令和8年度</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">部活動</td> <td style="text-align: center;">クラブ</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="7" style="text-align: center;">※2日以上(平日1日、休日1日)お休み</td> </tr> </table>		現在	月	火	水	木	金	土	日		部活動								※2日以上(平日1日、休日1日)お休み							↓	月	火	水	木	金	土	日	令和8年度	部活動						クラブ		※2日以上(平日1日、休日1日)お休み						
現在	月	火	水	木	金	土	日																																										
	部活動																																																
	※2日以上(平日1日、休日1日)お休み																																																
↓	月	火	水	木	金	土	日																																										
令和8年度	部活動						クラブ																																										
	※2日以上(平日1日、休日1日)お休み																																																

<https://www.city.tamano.lg.jp/soshiki/35/37562.html>

【玉野市ホームページ（一部抜粋）】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【バスケットボール】



【陸上競技】



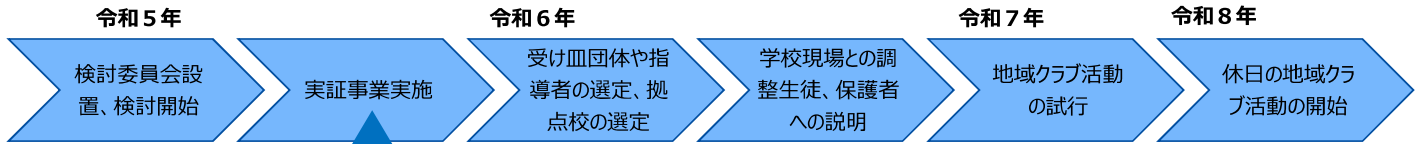
【書道】



【吹奏楽】パート練習→合同演奏

2. 実証内容と成果

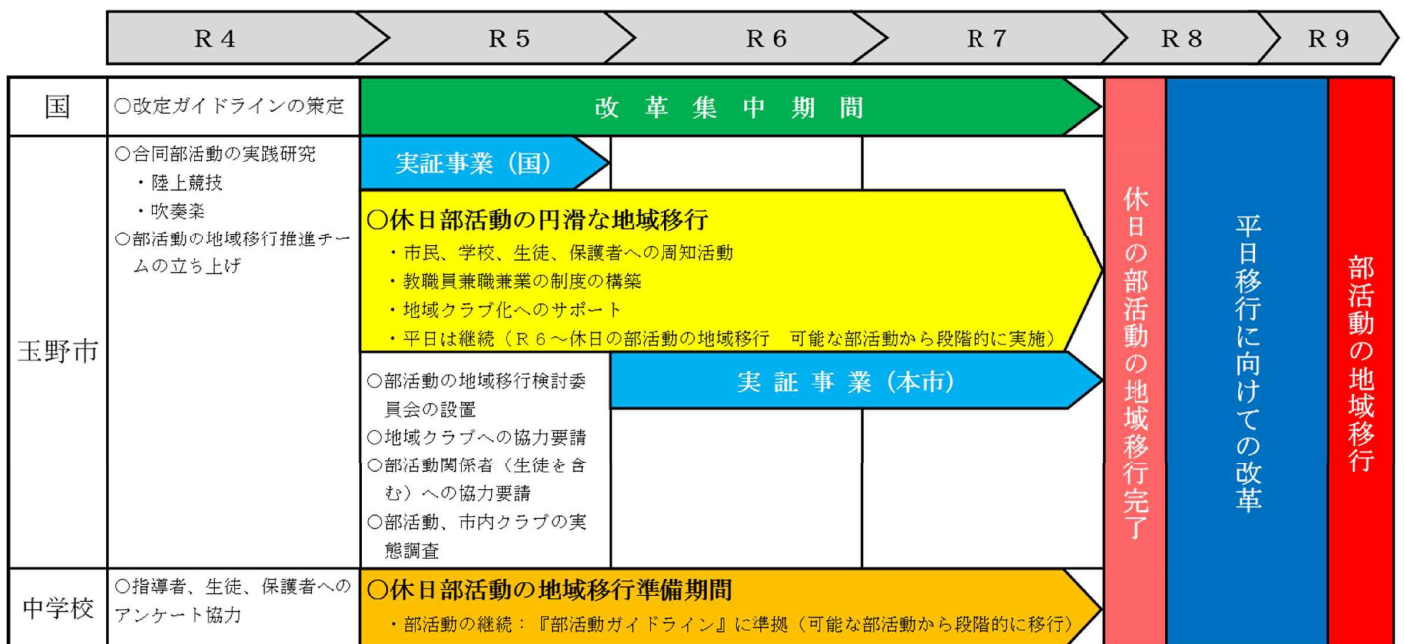
地域スポーツ・文化芸術クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



<p>開催案内 → 申込方法</p> <ul style="list-style-type: none"> Googleclassroomの登録 Googleフォームでの申込 チラシ 申込QRコード一覧表の配付 <p>●中学校の登録率が7%、小学校の登録率が36%に留まった。そのため、選定部活動の顧問にチラシ、対象者全員に申込一覧表を紙媒体で、配付することとなった。</p> <p>●周知を図るためには、紙媒体での広報が確実だが、コストがかかる。 →Googleclassroomへの登録率を上げる必要がある。</p>	<p>受け皿となる団体</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の団体に対象者の受け入れを依頼 ●既存団体の活動日に対象者の受け入れを調整したが、時間と場所の問題で、上手くいかなかった。また、実証事業用にクラスを開講するのも難しかった。 ●指導はしてもらえが、活動場所が他の団体の使用があるためスポーツセンターやレクレーションセンターなどのスポーツ施設が使用できなかった。 →活動場所として、学校開放事業を用いて、中学校を使用。 →中学生受け入れのクラスを開講してもらう。 	<p>教員の兼職兼業</p> <ul style="list-style-type: none"> 1名の兼職兼業を許可。 1名の兼職兼業を不許可。 ●月時間外業務時間が平均30時間をラインに許可をした。国の方針もあるが、現在の計上方法で行くと、教員が兼職兼業を許可できることはほとんどない。 →兼職兼業ラインの見直し 	<p>説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員：校長から 保護者：文書 生徒：担任から 市民：HP、広報紙 ●本課職員が直接訪問して説明会の実施を検討 ●教職員へ兼職兼業の説明会の実施を検討 ●スポーツ団体、文化団体への説明会実施の検討
<p>種目・メニューごとの協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動部、文化芸術の個々の種目やメニューによって、状況が大きく異なるため、それぞれの関係団体、関係者を一同に介して、ゴールイメージ、ロードマップの共有を図る必要がある。 			

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



**【備前市】
令和5年度部活動の地域移行
に向けた実証事業**

**令和6年2月7日（水）
備前市 地域移行課**

備前市の中学校部活動の現状

令和5年度

中学校 5校

生徒数 603名

運動部 22部活動 352名

文化部 7部活動 131名



3年生が引退後、5部活動が活動できなくなる

備前市の中学校部活動の課題

部活動については、少子化に伴う生徒数の減少による影響が大きいですが、学校間での格差が大きくなっていると感じる。1つの学校で部活が9ある学校もあれば、1つの学校に2つしかない学校があるなど、生徒数の違いにより、活動できる状況が大きく異なってきている。規模の小さい学校では、廃部や休部、活動の縮小に追い込まれていく部活動も少なくない。生徒にとっては自分のやりたい部活動がなく、あったとしても少ない部員数であることで活動が低調となり、魅力が感じられないという状況が生じることもある。

団体競技スポーツについては、1つの中学校だけで試合に出場することが難しく、他の学校と合同チームを組み、大会出場を目指す学校も多い。ただし、規模の小さな学校では、部活動がないこともある。

また、個人競技については、ソフトテニス为例にあげると、1つの学校から個人戦には参加できるが、団体戦は参加できない。しかし、個人競技であるため、合同チームが組めず、個人戦のみの参加しかできないといった状況がある。

部活動と地域移行

このような状況の中、これまでと同様のやり方では、中学生の部活動を維持することが困難であり、今後は地域でスポーツや文化活動に親しめる環境を整備していく。

令和5年度では、備前市内の中学校のうち、5つの運動部活動と1つの文化部活動について、休日の部活動を地域移行として実施するため、実証事業を行う。

令和5年度地域移行に向けた実証事業

サッカー

剣道

陸上競技

アーチェリー

ゆるスポ

吹奏楽

運動部活動の地域移行について

運動部活動の地域移行については、部活動にかかわりのある指導者に依頼をしており、中学生と面識があることで、これまでと同様にスムーズな活動ができるよう、中学生への負担が少なくなるようにした。

また、指導者は外部指導者や教員を退職された方に依頼し、安心して指導がまかせられる体制ができた。

サッカー部

⇒ **地域クラブ**

陸上競技部

⇒ **備前市陸上協会**

剣道部

⇒ **剣道連盟**

アーチェリー部

⇒ **総合型地域スポーツクラブ**

ゆるスポ

⇒ **大学**

文化部活動の地域移行について

文化部活動の地域移行については、吹奏楽部活動を実証事業の対象としている。吹奏楽部については、人数が多く1つの中学校だけで十分な活動ができる部活動と人数が少なく合同での活動をする部活動がある。今回は合同で発表会に参加する3つの中学校の吹奏楽部で、地域移行を行った。

吹奏楽部

日生中学校

伊里中学校

吉永中学校

備前市地域吹奏楽クラブ

部活動地域移行の課題

- ・生徒数の減少 → 部員の減少
- ・指導者の確保
- ・活動場所の確保等(楽器の保管・運搬、練習会場)

部活動地域移行のこれから

- ・新たな部活動を地域移行で実施する
- ・新たな指導者の確保

備前東ソフトテニスクラブ

- ・三石中学校のソフトテニス部
- ・現在、中学2年生3人在席、来年度1人入部予定→来年度秋には部員1名となる
- ・三石中学校と吉永中学校が協力し、ソフトテニスクラブを設立。生徒にテニスができる環境を整える。

ご清聴ありがとうございました



【岡山県和気郡和気町】 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 (運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

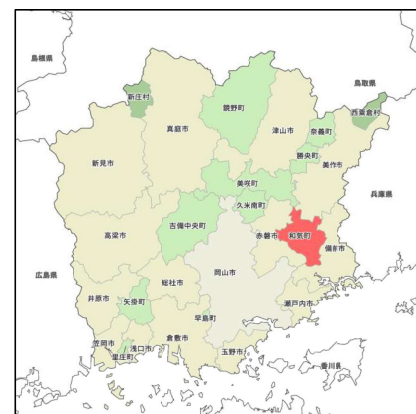
自治体名	岡山県和気郡和気町
担当課名	教育委員会学校教育課／社会教育課
電話番号	学校教育課：0869-88-1115 社会教育課：0869-93-3592（スポーツ振興係）
メールアドレス	学校教育課：gakkokyoiku@town.wake.lg.jp 社会教育課：taiikukan@town.wake.lg.jp

1. 自治体の基本情報



基本情報

人口	13,200人 (令和5年11月末現在)	部活動数	16部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	262人 (令和5年5月1日現在)	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中



<https://map-it.azurewebsites.net/Map/%E5%B2%A1%E5%B1%B1%E7%9C%8C-%E5%92%8C%E6%B0%97%E9%83%A1-%E5%92%8C%E6%B0%97%E7%94%BA/highlight>

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

平成18年3月1日に旧佐伯町、旧和気町の両町が合併して誕生した和気町は、岡山県の南東部に位置し、備前市や赤磐市に接し、吉備高原から連なる標高200～400mの山々に囲まれた自然豊かな町である。

本町では、令和3年3月、「第2次和気町総合計画」を策定し、リーディング・プロジェクト「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にも示された「スポーツの振興」に取り組んでいる。これまで、関係団体と連携しながら、若い世代から高齢者まで町民一人ひとりの体力や年齢、技能、興味、目的に応じて運動・スポーツに親しめるよう働きかけてきた。今後は、さらに高齢化が進むことが予想され、それに伴い健康寿命の延伸が課題となっている。

また、スポーツを通じた交流や親睦を図るため、各種スポーツやレクリエーションの集いや講習会等を開催する等、ライフステージに合わせた参加機会の拡充が重要となっており、拡充を目指す一環として、**総合型地域スポーツクラブ（和気クラブ）との連携を進めてきた。**子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多目的）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）要素を併せもつ総合型地域スポーツクラブは、**少子化により種目によって存続そのものが難しくなっている中学校部活動の受け皿としても期待**されている。

こうした背景を踏まえ、本町では**令和4年度、部活動の地域移行に向けた検討委員会を設置し、中学生のスポーツ・文化環境づくりについて**以下に示す内容について検討・協議を重ねている。

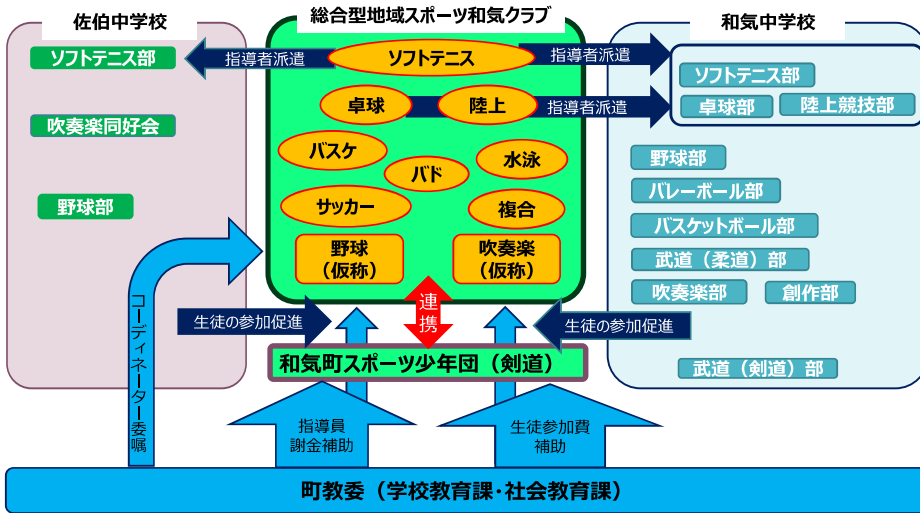


2. 実証内容と成果



運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**
(学校教育課)
部活動の地域移行の企画、全体計画作成、学校との調整
(社会教育課スポーツ振興係)
総合型スポーツ和気クラブ、スポーツ少年団事務局、同連絡調整、予算
(和気町中央公民館)
町文化連盟事務局、公民館事務局
- **首長部局**
(総務課危機管理室)
町営バス運行関係
(まち経営課移住推進室)
指導員確保関係（移住者等への啓発）

年間の事業スケジュール

実施時期	主な内容
R 5. 4	町教委による学校（校長・部活動顧問）、クラブへの説明会 クラブ指導者を部活動指導員に委嘱（ソフトテニス）
R 5. 5	総合型地域スポーツ和気クラブ理事長をコーディネーターに委嘱
R 5. 8	教委（学校教育課、社会教育課）とコーディネーターの定例会議（毎週水曜午前9：00～）をオンラインで開催 町広報誌「広報和気」8月号に部活動地域移行の記事掲載

実施時期	主な内容
R 5. 1 1	地域部活動に係る指導者研修会を開催
R 6. 1	先進地視察（長崎県長与町・長与スポーツクラブ）
R 6. 2	大学教員・大学生を招いたトレーニング・クリニック（平日の部活動地域移行モデル事業）開催
R 6. 3	「広報和気」3月号で本年度の取組の成果報告

3

2. 実証内容と成果



地域スポーツクラブ活動の運営実績

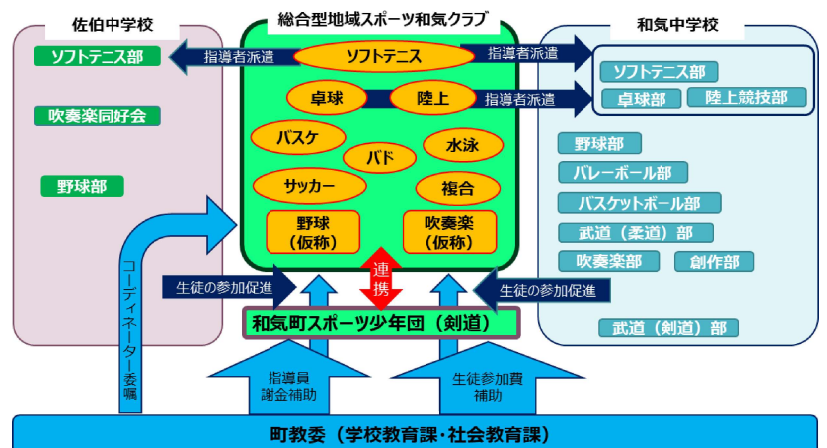
拠点校数	6	地域クラブ活動に取り組んだ種目	6 内訳：陸上競技1、ソフトテニス2、バスケットボール1、剣道1、バドミントン1
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数			4部活 内訳：陸上競技、ソフトテニス、バスケットボール、剣道

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	佐伯中学校、和気中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	0 ※現状としては、部活動と併存のため
地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン
運営主体名	総合型地域スポーツ和気クラブ
運営類型	総合型地域スポーツクラブ運営型
1か月あたりの平均的な活動回数	陸上競技、ソフトテニス：月8回程度 バスケットボール、バドミントン：月2回程度
指導者の主な属性	会社員
活動場所	陸上競技（和気小、佐伯中運動場） ソフトテニス（和気鶴飼谷温泉テニスコート） バスケットボール（和気町体育館） バドミントン（和気町体育館）
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	教室活動（陸上競技、ソフトテニス、バドミントン）：年会費3,000円、参加費1回500円 サークル活動（バスケットボール、バドミントン）：年会費3,000円、参加費無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



4

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 1 部活動の地域移行に向けた検討委員会（R4.10～）を4回開催 ※県教委が委嘱する部活動地域移行支援コーディネーター招聘
- 2 総合型地域スポーツ和気クラブを主な受け皿とし、理事長を町のコーディネーターに委嘱することを決定
- 3 学校教育課（企画）、社会教育課（渉外、財務）、コーディネーター（運営）の三者で週1回の定例会をオンラインで開催、Googleスプレッドシート・グループLINE等で情報共有

取組の成果

- 1 検討委員会には、関係機関（町スポーツ団体、学校、首町部局、教育委員会）の代表者が参加し、部活動改革は単に中学校の部活動を、地域を受け皿として実施するのではなく、中学生のスポーツ・文化環境を町を挙げて醸成していく「まちづくりの視点」で行うこと、そして、教育委員会だけでなく部局横断的に取り組むことを共通理解することができた。
- 2 受け皿団体決定の背景として、町内で歴史があり、多くの児童生徒が所属していること、多様なスポーツ・文化体験が可能であることを重視した。なお、和気クラブにはない競技種目の一つである剣道は、和気町スポーツ少年団（剣道）を受け皿として取り組んでいる。
- 3 前例のない取組に対しては、多面的な課題把握や、解決策の提案が必要である。時間・場所の制約が少ないオンライン会議、ICTを活用することで小まめな情報共有が可能になるとともに、担当者任せにせず、課題は皆で共有する体制が確立できている。

特に工夫した事項

- 1 議会全員協議会で取り上げたり、町広報誌による啓発を行ったりするなど、全町的な取組にすることができた。
- 2 本年度、中学校にない活動ができる環境づくりを行うなど、多様な活動の場を創出している。（R5新規立ち上げクラブ数3：バドミントン、和太鼓、吹奏楽）
- 3 取組を推進していく中で生まれた課題に対し、それぞれが持っている情報を共有することで、例えば、新規クラブ立ち上げの際の指導者招聘につなげることができた。

今後の課題と対応方針

広報誌を使った定期的な発信だけでなく、ターゲット層に直接PRすることも必要である。そこで、令和6年1月から2月にかけて、中学校主催の令和6年度中学校入学予定者向け説明会で、部活動の地域移行の目的や取組等を町教委職員が保護者に直接説明する機会を設けた。

今後も、例えば町政懇談会等で繰り返し説明する機会を設けていきたい。また、本取組に関わる「人」を増やし、まちづくりの視点で取組を継続させることが必要である。



中学校説明会写真

5

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ. 指導者の質の保証・量の確保

取組事項

質の保証：IPU環太平洋大学体育学部教員を招いた指導者研修会の開催
 量の確保：移住者コミュニティへの働きかけ、大学との連携、町広報誌の活用

取組の成果

質の保証：指導者研修会では「スポーツにおける体罰・ハラスメント防止」「中学生期のトレーニング」「特別支援の視点を踏まえたスポーツ指導」のテーマで講義を行い、和気クラブ指導者や町のスポーツ団体指導者等約20名が受講した。

量の確保：上記研修会で講師を務めた大学教員と連携した取組として、1中学校をモデル校として、平日放課後に、大学教員及び大学生が講師を務める「トレーニング・クリニック」を開催する（2月15日予定）。

特に工夫した事項

質の保証：研修会参加者どうしで意見交換を行うとともに、それぞれの立場での「（地域のスポーツ環境づくりに向けた）明日からの一歩」を記入し、後日参加者に共有した。また、中学生期の指導を行うにあたって必要な3点に特化して研修を行った。

量の確保：町内への移住者の多くが加盟しているグループLINEへ、地域移行に関する取組を行っているクラブ活動の指導者募集の投稿を継続的に行っている。また、指導者集めをする際に、「中学生を指導できる人」という表現を用いるのではなく、「子どもたちと一緒に〇〇で体を動かしませんか?」という表現で参加者を広く募り、その中から現指導者が次期指導者選びを行いやすくなった。

今後の課題と対応方針

質の保証：指導者には、各競技団体等が定める公認資格の取得を促すとともに、大学等と連携した指導者向け研修会を継続的に実施することをとおして、各指導者の資質を維持・向上させていく必要があると考えている。また、資格取得費用の一部を助成することも検討したい。

量の確保：町内在住者等で、一緒にスポーツに携われる方を草の根的に声をかけながら集めるとともに、大学生の活用に向け、大学生の入学時オリエンテーション等の場を活用して、広報していきたい。

地域のスポーツ環境づくり「明日からの一歩」(地域スポーツ指導者編①)

スポーツには「生涯スポーツ」「指導者コース」「アスリート」の3つのコースがある。この3つのコースが相互に関連し、連携してほしい。	中学生期のトレーニング、子どもの教育費、ストレッチなどを学ぶたい。	今の社会は、大人も子どもも、スポーツの大切さを理解していない人が多い。スポーツ指導者が多ければ、改善できるような気がする。	いろいろな講習を開催していただけたので、しっかり利用したい。参加した方が地域で活動しやすくなると思う。
目的の一致より選手・子ども達の一生を考える指導を	成長にあったトレーニングメニューの提案	指導方法は経験者・子ども指導者の間で異なり、改めて学びたい。	個人に合った指導をすることが大切だと思う。
目的をもったトレーニング(アプ・ダウン)	指導者として自分の活動に気づける	1人1人の個性を尊重しながらスポーツの楽しさを伝える。	現状に変化を加え、日々勉強
子どもたちの能力(技術・人間力)を高められるような指導に向けて、自分自身も日々学ぶために	音楽でものとして観望し、指導者面がある。今回の話を聞いて、今まで自分がやってきたことは間違えてはいないが、少し違うと思う。ハラスメント問題、身体的な問題など、これから考えさせられることがあった。	指導方法は経験者・子ども指導者の間で異なり、改めて学びたい。	スポーツの楽しさを身につけてほしい。スポーツを生涯の一歩とならせてほしい。
みんなが喜んでくれるものを提供したい。		選手とのコミュニケーション状態を考慮した活動	

地域のスポーツ環境づくり「明日からの一歩」(県・市町村等行政関係者編)

特別支援の視点を踏まえると、多様なニーズに応えることができない。いかに中心になるか、今後の制作に活かしたい。	スクールフェスの発展案として、スポーツフェスのイベントを行い、他活動(部)地域移行の機運としたい。	現在の部活動ばかりにとらわれず、異(移行)される方の多様なニーズに応えることができない。いかに中心になるか、今後の制作に活かしたい。	指導者の質を向上させるための研修や、財政支援プロナーの方法など
人の関わりが少し弱かある。	指導者として自分の活動に気づける	海外から学ぶべきものがある。指導者も海外に行きたい。	
指導者の質、指導者の質、指導者の質	指導者として自分の活動に気づける	自分のスポーツ経験を活かせる場において、自分自身でスポーツを体験する。	
活動地域移行に向けて関係団体と連携する場を設け、情報共有を図る。	ゆるスポ、ライトスポーツイベントの開催を企画し、新たな取組で取り組む。	少子化で子どもたちのスポーツをする環境が少なくなっている中、地域移行によって子どもたちがスポーツを楽しむ環境を整えていきたい。	
情報収集(各団体の情報、指導者資格、大会参加条件等)	研修へのアプローチ	"well-being"を目的としたスポーツ環境が構築されるよう取り組んでいきたい。	

指導者研修会の中で各参加者が記入した「明日への一歩」

6

地域のスポーツ環境づくり「明日からの一歩」(地域スポーツ指導者編①)

スポーツには「生涯スポーツ」「指導者コース」「アスリート」の3コースがある。この3つの中から個人にあったコースを選択してほしい。

中学生期のトレーニング、こどもの発育発達、ストレッチなどを学びたい。

今の社会は、大人も子どももスポーツの大切さを理解していない人が多い。スポーツ指導者が多くなれば、改善できるような気がする。

いろいろな講習を開催していただけるので、しっかり利用して、参加された方と意見交換していくことが大切だと思った。

成長にあったトレーニングメニューの提案

個人に適した指導をすることが大切であると思う。

目先の一勝より選手・子ども達の一生を考える指導を



現状に変化を加え、日々勉強

目的をもったトレーニング(アップ・ダウン)

指導者として自分の言動に気をつける

スポーツの楽しさを見つけてほしい。スポーツを生活の一部ととらえてほしい。

子どもたちの能力(技術力・人間力)を高められるような指導に向けて、自分自身も日々学んでいく

充実できるものとして環境面、指導者面がある。今回の話を聞いて、今まで自分がやってきたことは間違っていないが、少し浅いと思う。ハラスメント問題、身体的な問題など、これから考えさせられることがあった。

指導方法は保護者・子ども・指導者の三者で話し合いで決めて進めていきたいと思った。

1人1人の個性を尊重しながらスポーツの楽しさを伝える。

みんなが喜んでくれるものを提供したい。

相手とのコミュニケーション状態を考慮した言動

「ルールや方法を変えたスポーツの楽しみ方」がすごく参考になった。工夫して楽しみを見つけることを実践したい。

7

地域のスポーツ環境づくり「明日からの一歩」(県・市町村等行政関係者編)

特別支援の観点を踏まえると、多様な生徒のニーズに応えることができるのではないかとヒントをいただいた。今後の制作に活かしたい。

スクールフェスの発展系として、スポーツフェスのイベントを行い、部活動外部(地域)移行の橋渡しとする。

好事例を持続可能にするための方策の検討(県内への普及方法や、財政支援アプローチの方法など)

現在の部活動ばかりにとらわれず、長く続けられるスポーツを地域で取り組むことができるようにしていきたい。

人との関わり方をしっかり考えていきたい。



海外から学ぶべきものが多くあり、今後の指導に広い視野で取り組んでまいりたい。

不適切な指導、ハラスメントのないスポーツ環境となるよう、引き続き取り組んでまいりたい。

自分のスポーツ経験が活かせる場において、自ら現場でスポーツを実践する。

部活動地域移行に向けて関係団体と協議する場を設け、情報共有を図る。

ゆるスポ、ライトスポーツにインクルーシブな観点を踏まえ、新たな発想で取り組みたい。

和気町とIPU・環太平洋大学との体育・スポーツの連携を進め、幼～老まで一緒にできるスポーツ振興を進めていく手助けをする

少子化で子どもたちのスポーツをする環境が少なくなっている中、地域移行によって子どもたちがスポーツを楽しめる環境を整えていきたい。

情報収集(各種目の情報、指導者資格、大会参加要件等)

課題へのアプローチ

"well-being"を目指したスポーツ環境が構築されるよう取り組んでいきたい

2. 実証内容と成果



ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

<p>取組事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校・受け皿となる団体の指導者・町教委事務局との協議による方向性の共有 2 首長部局と連携した全町的な推進体制（再掲） 3 スポーツ少年団との連携 4 IPU環太平洋大学との連携 <p style="text-align: right;">和気町スポーツ少年団（剣道）紹介動画 → </p>	
<p>取組の成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 本年度から、学校と受け皿団体との連携強化のため、例えば、総合型地域スポーツ和気クラブ指導者を部活動指導員として学校部活動に派遣することとした。派遣に際し、関係者による協議を行い、双方の思いを踏まえた連携の方向性を確認することができ、その後の円滑な指導体制確立につながった。 2 休日の活動における移動手段確保の観点から、役場危機管理室と、町営バス運行についての協議を行った。また、クラブの財源確保の観点から、役場まち経営課と企業版ふるさと納税の活用についての協議を行った。 3 総合型地域スポーツ和気クラブにない種目の受け皿確保のため、町スポーツ少年団関係者と協議を行い、剣道についてスポーツ少年団を受け皿とすることを決定し、令和5年8月から、休日の部活動を少年団に完全移行することができた。 4 指導者研修会で講師を務めた大学教員と連携した取組を予定している。（再掲） 	<p>和気町スポーツ少年団（剣道）活動の様子</p>
<p>特に工夫した事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 これまで学校部活動を担ってきた校長、部活動顧問の「部活動に対する思い」をないがしろにしたり、否定したりするのではなく、部活動の果たしてきた役割や意義を認めつつ、少子化の進展に伴い、生徒の活動機会の保障が不可欠であることを丁寧に説明することを心がけた。 2 令和4年12月に部課長会議で部活動の地域移行に向けた町の取組の理念を説明するとともに、地域移行に向けた検討委員会委員に関係所属長（移住推進室長、危機管理室長）を委嘱することで、全庁的な視点での意見収集と課題の共有ができた。 3 令和5年3月に剣道団团长、中学校部活動顧問、部活動指導員に対して理念等について丁寧に説明することで、その後のスムーズな移行につながった。 	
<p>今後の課題と対応方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 現在、中学校にある部活動種目のうち、受け皿となる団体が未整備のものが（軟式野球、サッカー、バレーボール、卓球、柔道）、それぞれに指導者不足や生徒不足など、多様な課題を抱えている。今後は、単町での受け皿確保だけでなく、近隣自治体と広域的な視点で連携していくことや、オンライン指導の試験導入に取り組んでいきたい。 	

9

2. 実証内容と成果


ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

<p>取組事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 メディアを通じた取組の発信（新聞、テレビ局） 2 県内市町村スポーツ・文化担当者向けの意見交換会における取組事例紹介 3 町教委主催の指導者研修会への近隣自治体スポーツ関係者の参加依頼 	
<p>取組の成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 本年度の部活動地域移行の取組について、町として積極的にメディアに情報提供を行うことで、取組を広く知ってもらおうと心がけた。その結果、地元テレビ局の取材（RSKメッセージ）を受け、放映されることで、県内外に広く取組を周知する機会となった。また、県内コミュニティ紙（備北民報）に本町の取組記事が掲載された。 2 令和5年11月、県スポーツ振興課が主催した担当者意見交換会で本町の取組について発表した。これを契機として、1月末現在、県内の複数自治体から視察や資料提供依頼があり、少しずつではあるが、県内に波及していると感じている。 3 11月26日に開催された指導者研修会には、近隣自治体のスポーツ行政関係者が複数参加し、町内参加者（和気クラブ及びスポーツ少年団指導者等）とともに「地域スポーツの振興に向けて自分ができること」について協議をすることができた。 	<p style="text-align: center;">備北民報紙面（抜粋）</p>  <p style="text-align: center;">指導者研修会での協議の様子</p>
<p>特に工夫した事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 行政等の公共機関のメリットとして、新聞等のメディアの活用には制約が少ないことが挙げられる（営利目的ではないため）。すでに県内の新聞社では、数年前から部活動改革について連載記事を組んでいたが、地域住民に対する一層の周知が必要である。メディアを通じて町の取組を発信することで、町内だけでなく町外からの参加者拡大にもつながるのではないかと考え、行事やイベント実施の際には、取材依頼を行った。 2 現在、複数のクラブを開設し、多様なスポーツ環境を構築している和気クラブではあるが、集団スポーツ等、単町での受け皿設置に限界があるため、近隣自治体においても同様の取組が加速することで、広域的な受け皿整備につながるのではないかと考えている。 	
<p>今後の課題と対応方針</p>	<p>部活動改革は、前例のない改革であるゆえ、様々な課題が出てくる。各自自治体共通の課題に直面した際に、担当者同士が気軽に質問、助言できる体制をつくる必要がある。また、広域連携については、現在、中学校体育連盟の地区大会を県内複数ブロックで実施していることから、その地区割を参考とした連携が考えられる。こうした枠組みについて、県全体の視点での協議ができるよう働きかけていきたい。</p>	

10

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

- 1 多様なスポーツ環境の整備 ※5つのクラブに中学生が参加（ソフトテニス、陸上競技、バスケットボール、バドミントン、剣道）
- 2 生徒のニーズに応じた活動環境の確保 ※レベルアップクラス、レクリエーションクラス
- 3 各種大会への参加

総合型地域スポーツ和気クラブ紹介動画→



取組の成果

- 1 各クラブに参加している中学生の声としては次のようなものがある。
 「中学校では体育の時間にしかしたことがなかったが、毎週、決まった時間に友だちと活動することができ、嬉しい。」（バドミントン）
 「部活動顧問の先生は専門外なので、クラブで専門的な指導を受けることができ、楽しみながら技術も高めることができています」（ソフトテニス）
 「私は、中学校では違う活動をしているが、バスケットボールが好きなので参加している。小学生や大人と活動することができ、とても楽しい。」（バスケットボール）



特に工夫した事項

- 2 各クラブでは、次の視点で運営を行っている。
 - ・部活動に加えてさらなるスキルアップをしたい生徒のニーズに応じたクラス開設（ソフトテニス）
 - ・複数の専門指導者がいるメリットを生かしたクラス運営（陸上競技）
 - ・参加者のニーズ・スキルレベルに応じたクラス開設（バドミントン）
 - ・参加者の主体的な取組によるクラス運営（バスケットボール）
 - ・中学校部活動と連動した指導体制（剣道）
- 3 令和5年度は中学校体育連盟主催大会への参加はなかったが、各競技団体主催の大会等に多数参加し、日頃の練習の成果を試す場としている。



今後の課題と対応方針

現在、中学校に部活動がある競技のうち、町内に受け皿として開設できていないクラブは次の5つである（軟式野球、サッカー、バレーボール、卓球、柔道）。このうち、和気クラブ内にすでにあるクラブは卓球、バレーボールであり、中学生が参加できるよう、指導者を確保したり、中学生に対して参加促進を呼びかけたりしていきたい。また、単町で人数確保が困難な種目（軟式野球、サッカー）については、広域での開設またはすでにある組織へ参加できるよう働きかけていきたい。柔道については、町内にある武道館で活動している団体があり、そこを受け皿とできるよう協議を進めていきたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

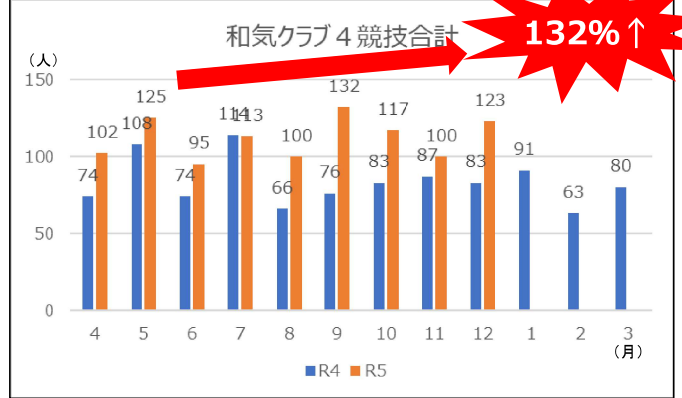
▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項 町費負担による中学生の参加費の実質無償化

取組の成果

本年度、部活動の地域移行の実証事業に取り組むにあたり、広報和気令和5年8月号で「中学生の参加費・活動費を補助する」旨を周知した。また、夏季休業前に、町内各校を通じて、児童生徒及び保護者に和気クラブ紹介チラシを配付したことで、中学生年代の参加者が増加した（詳細右記参照）。

特に、レベルアップを目指す陸上競技クラブ（前年度比202%増）や、参加費無料で気軽に参加できるバスケットクラブ（前年度比482%増）への中学生年代の参加者が増え、活動が活性化している。



特に工夫した事項

【本年度の取組】

- ① 中学校と総合型スポーツ和気クラブとの連携強化
ソフトテニス(佐伯中・和気中)、陸上競技(和気中)、卓球(和気中)の各部活動に、総合型スポーツ和気クラブから指導者を派遣し、学校とクラブとの連携づくりを行っています。
- ② 多様なスポーツ環境の整備
総合型スポーツ和気クラブ内に、中学校には無いスポーツ活動(バドミントン)の受け皿を整備します。
- ③ 総合型スポーツ和気クラブでの中学生の活動機会の拡大
総合型スポーツ和気クラブで活動する生徒の参加費・活動費を補助します(町内に居住する中学生のみ)。多様な活動に参加し、スポーツの魅力味わう機会を設けます。
- ④ 文化環境の整備
総合型スポーツ和気クラブ内に、吹奏楽をはじめとする音楽活動を行うクラブを整備します。

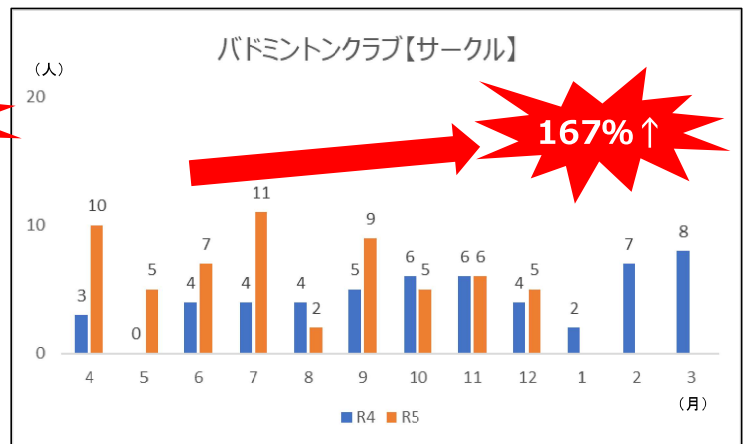
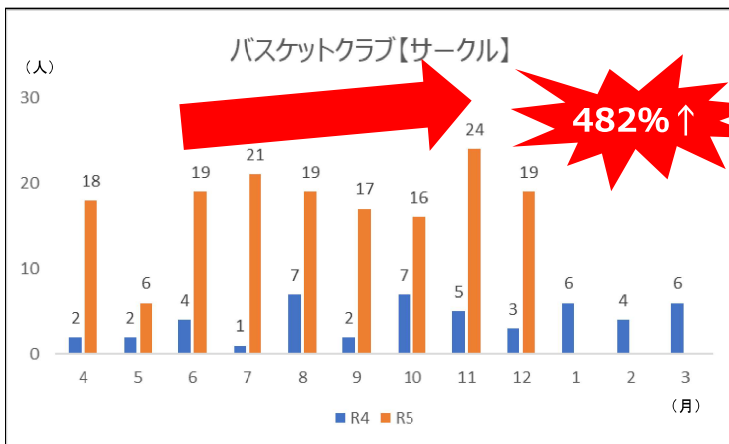
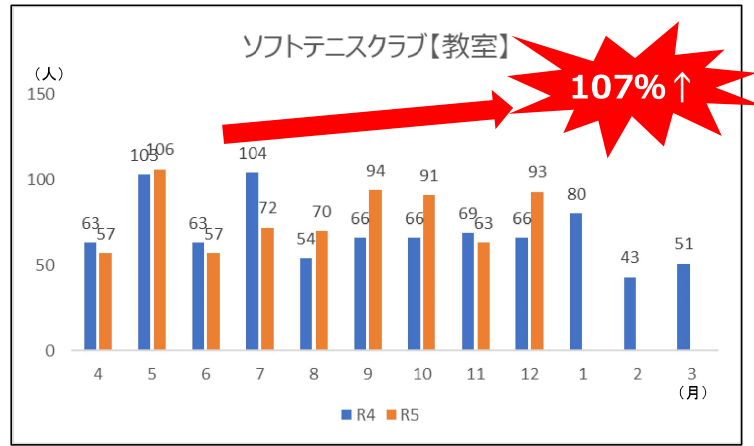
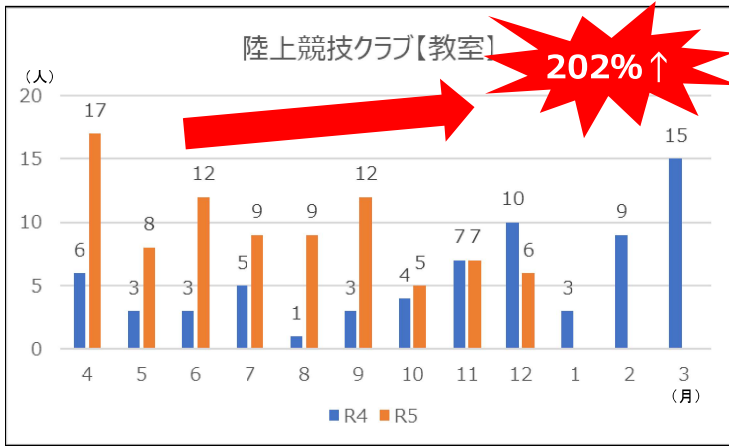
広報誌による周知（広報和気令和5年8月号（部分））



総合型地域スポーツ和気クラブ作成の参加者募集チラシ

今後の課題と対応方針

最終的には受益者負担の原則に則ったクラブ運営が求められるところではあるが、現在は、その過渡期であることから、国・県及び町の補助金、委託金等の予算を確保していくとともに、参加費用が高額にならないよう、クラブ等による自主財源の確保が必要であると考えている。



2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【陸上競技クラブ】



【ソフトテニスクラブ】



【バスケットクラブ】



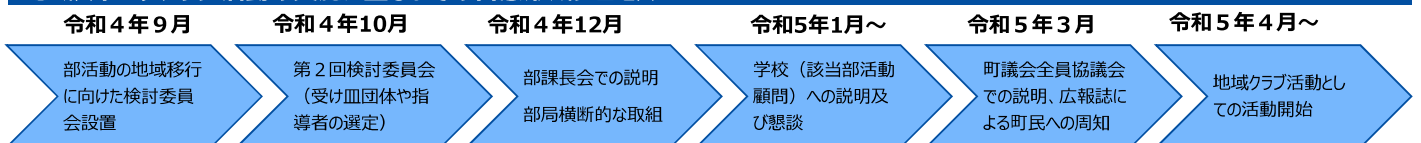
【バドミントクラブ】



【剣道スポーツ少年団】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

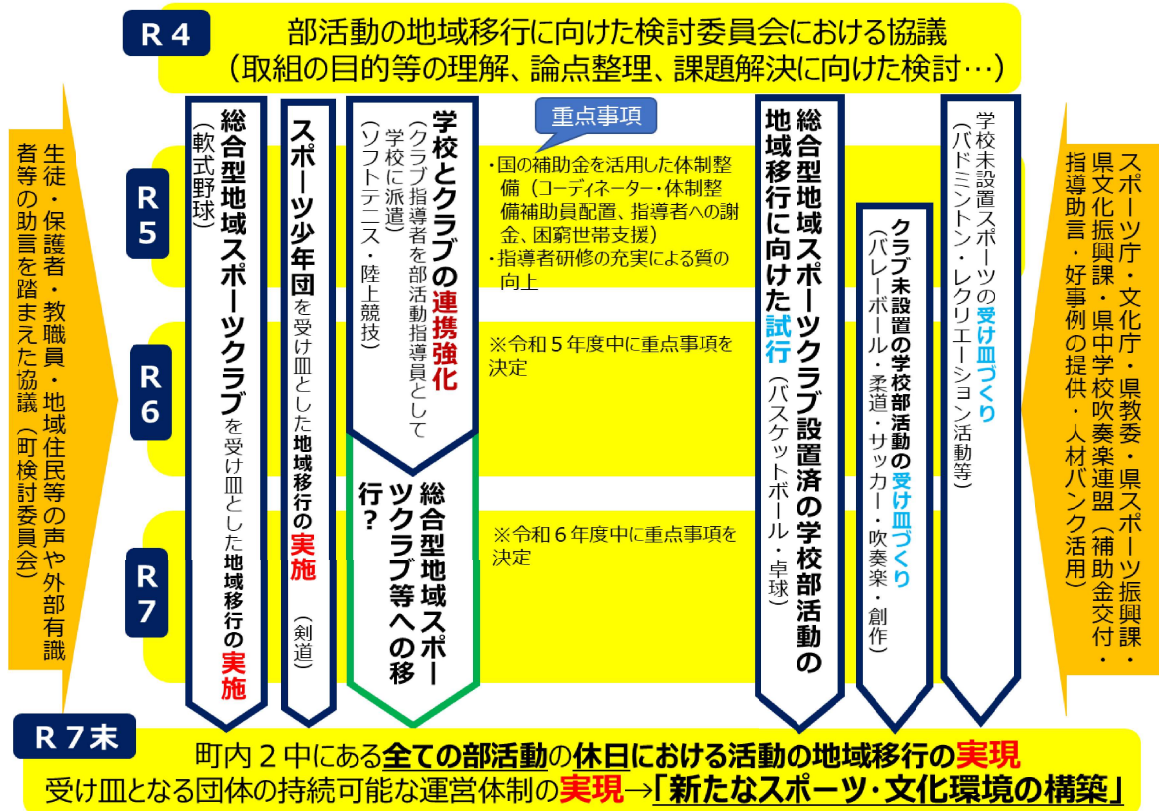


<p>●第1回検討委員会</p> <p>○参加者（委員）：町スポーツ協会会長・町スポーツ少年団本部長・総合型地域スポーツ和気クラブ理事長、同理事・中学校長・教育長、学校教育課長、学校教育課長代理、社会教育課長代理ほか</p> <p>○協議題：</p> <p>（1）休日の部活動の地域移行に向けて解決すべき内容の論点整理</p> <p>（2）今後の方向性（ロードマップ）</p> <p>・近隣自治体との広域連携に向けた事務局レベルの意見交換の実施</p> <p>・児童生徒及びその保護者向けアンケート実施とニーズ把握</p> <p>・地域移行支援コーディネーターの活用</p>	<p>●第2回検討委員会</p> <p>○参加者（委員）：左記委員に加え、県教委が委嘱する地域移行支援コーディネーター</p> <p>○協議題：</p> <p>（1）第1回検討委員会で出た課題への具体的な対応について</p> <p>①指導者の確保</p> <p>②生徒の交通手段</p> <p>③地域住民への啓発</p> <p>④広域での連携</p> <p>（2）今後の方向性</p> <p>・町長部局の理解促進に向けた取組</p> <p>・令和5年度からのモデル種目の検討（学校部活動との調整、予算獲得に向けた環境整備…）</p>	<p>●部課長会</p> <p>○参加者：町長部局の各部課長、教育委員会事務局</p> <p>○説明内容：</p> <p>1 部活動の教育的位置づけ</p> <p>2 部活動改革の論点</p> <p>3 部活動はこう変わる</p> <p>4 これからの和気町の児童生徒のために考えるべきこと</p> <p>5 教育委員会からのメッセージ</p> <p>「部活動の地域移行は、和気町全体で子どものスポーツ・文化機会を確保するという「新たなスポーツ・文化環境の構築」であると捉え、各部署にご協力をお願いしたい。」</p>	<p>●学校への説明及び懇談会</p> <p>○参加者：中学校長、該当部活動顧問、総合型地域スポーツ和気クラブ理事長、各クラブ指導者、町教委学校教育課長、同課長代理、社会教育課担当者</p> <p>○説明内容：</p> <p>左記部課長会の内容の1～4及び総合型地域スポーツ和気クラブの該当クラブの状況</p> <p>○懇談内容：</p> <p>・学校とクラブの連携の形態や方法</p> <p>・生徒の該当スポーツへの取組状況</p>	<p>●町議会全員協議会での説明</p> <p>○参加者：和気町議会議員、町長、副町長他町執行部職員、教育長、教育次長、学校教育課長、同課長代理、社会教育課担当者</p> <p>○説明内容：</p> <p>左記部課長会の内容の1～4、令和5年度実践研究事業の概要、教育委員会からのメッセージ</p> <p>「部活動の地域移行は、和気町全体で子どものスポーツ・文化機会を確保するという「新たなスポーツ・文化環境の構築」であると捉え、町議会議員のみならず、みなさまのお力添えをお願いしたい。」</p>
---	--	--	---	--

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

休日の部活動の地域移行の実現に向けた和気町ランドデザイン (R4~R7)



文化部活動の地域移行に向けた 取組報告



令和6年2月7日 和気町教育委員会

本日お伝えする内容

- 1 吹奏楽クラブ立ち上げまで
- 2 中学生の文化環境づくりに向けて
 - (ア) 関係者との連絡調整・指導助言等の体制
 - (イ) 指導者の質の保証・量の確保
 - (ウ) 関係団体・分野との連携強化
 - (エ) 面的・広域的な取組
 - (オ) 内容の充実
 - (カ) 参加費用負担の支援等
 - (キ) 学校施設の活用等



3 参考資料

1 吹奏楽クラブ立ち上げまでのスケジュール

実施時期	主な内容
R 5. 4	文化庁の委託事業契約
R 5. 6	コアメンバー※ 選定開始
R 5. 8	コアメンバー（3名）確定
R 5. 9～10	中学校（校長、吹奏楽部顧問）への趣旨説明
R 5. 10	第1回活動に向けたプレ活動日の設定、参加者募集チラシ配付
R 5. 11	第1回活動（県教育庁生涯学習課視察）
R 5. 12	第2回活動（RSKテレビ「メッセージ」取材）
R 6. 1	第3回活動
R 6. 2	第4回活動 以降、月1回を基本に活動予定



※ コアメンバーとは、吹奏楽クラブ運営の中心を担う方のこと



2 文化環境づくりに向けて

(ア) 関係者との連絡調整・指導助言等の体制

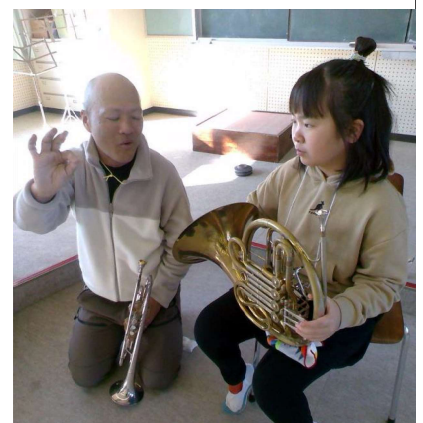
- ・総合型地域スポーツ和気クラブ前理事長の思い（スポーツだけでなく、文化環境も。過去にはハンドベル演奏のクラブも）
- ・吹奏楽部顧問への理念説明（地域移行への疑念、中学校バンドの指導への熱い思い）
- ・地元吹奏楽団との連携を模索するも、コロナ禍での活動縮小の影響で先行き不透明な状態に



2 文化環境づくりに向けて

(イ) 指導者の質の保証・量の確保

- ・学生時代に何らかの楽器を経験した方は、世の中に結構いる。しかし、「中学生」を「指導する」ことはとてつもなくハードルが高い！（と思われる）
- ・様々な人がもつ情報（点）をつなぎ、意中の人を見つける
「地域おこし協力隊の人、大学で吹奏楽部だったらしいよ」
「〇〇ちゃんのお父さん、音楽の教員免許もってるんだって」
- ・コアメンバー＝共同経営者
→責任の軽減・役割分担・意見の多様化
- ・楽器ごとに「指導者」は必要なのか？





2 文化環境づくりに向けて

(ウ) 関係団体・分野との連携強化

【指導者発掘】

- ・中学校吹奏楽連盟、県教委生涯学習課に東備地区在住の元教員（吹奏楽部顧問経験者）の情報を照会
- ・地元の吹奏楽団（和気吹、佐伯吹）との連携
→第1～第3回活動までに多くの団員が参画

【楽器調達】

- ・県立和気閑谷高等学校の楽器借用を模索
- ・町内中学校にある遊休楽器の活用
- ・地元にある楽器店との連携を模索



2 文化環境づくりに向けて

(エ) 面的・広域的な取組

- ・メディアを活用した活動の周知

3/31
10:00～
BS TBSに
て再放送



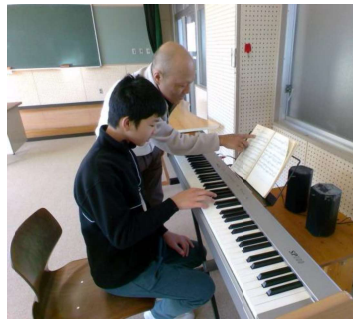
出典：RSK山陽放送「メッセージ」（Tver画面より）



2 文化環境づくりに向けて

(オ) 内容の充実

- ・コンセプトは「大人も子どもも、初心者も経験者も、楽器所有者も未所有者もウェルカム！集まったみんなで一つの音楽をつくる」。しかし、このコンセプトが自分たちの首を絞めることに…
- ・楽器に触れたい、演奏してみたいと思って来た人たちを満足させるには
- ・吹奏楽クラブの持ち曲（テップンソング）「ふるさと」



2 文化環境づくりに向けて

(カ) 参加費用負担の支援等

- ・令和5年度は試行のため、クラブへの入会金不要、参加費無料
- ・6年度以降、お金を払ってでも参加したいと思われる活動にするには…





2 文化環境づくりに向けて

(キ) 学校施設の活用等

- ・学校音楽室の下見を実施
→充実した環境、しかし警報機感知エリアのため、職員室経由が必須
- ・楽器の保管場所、近隣への音対策、継続利用可能、冷暖房…第1回活動は体育館のトレーニングルーム
- ・地元住民の願いである
「廃校の跡地利用」に向けて



3 参考資料



令和5年度文化庁「部活動の地域移行に向けた実証事業」

吹奏楽クラブ (仮称)

メンバー募集

活動日
第1回: 11月5日(日)
第2回: 12月3日(日)
いずれも14:00~17:00

小学5年生～誰でもOK
大人と付き合いたいなら参加歓迎し

楽器未経験者大歓迎

自分の楽器を持ってなくてもOK

参加費無料

参加申込は↓こちらから↓

活動内容: 活動日: 月1回(週末活動予定)
場 所: 和気町体育館1階トレーニングルーム
〒309-0442 和気郡和気町福室512-1

【お問合せ】 総合型スポーツ和気クラブ (93-3605)
和気町教育委員会社会教育課 (93-1237)
【コアメンバー】 酒橋 幸治 (Tb) / 山田 賢吾 (Tp) / 中村 倫子 (Dr)

※切: 第1回→10/31(水)
第2回→11/28(火)

令和5年度文化庁「部活動の地域移行に向けた実証事業」

吹奏楽クラブ (仮称)

メンバー募集中

活動日
第3回: 1/14(日) 9:00~12:00
第4回: 2/17(土) 14:00~17:00
第5回: 3/24(日) 14:00~17:00

小学5年生～誰でもOK
大人と付き合いたいなら参加歓迎し

楽器未経験者大歓迎

自分の楽器を持ってなくてもOK

参加費無料

参加申込は↓こちらから↓

活動概要: 場 所: 旧和気小学校3階音楽室
〒309-0450 和気郡和気町和気199
※駐車場は、和気町体育館の運動場をご使用ください。
内 容: パート練習、合奏
※楽器がなくても参加できます。
※楽器がなくても参加できます。

【お問合せ】 総合型スポーツ和気クラブ (93-3605)
和気町教育委員会社会教育課 (93-1237)
【コアメンバー】 酒橋 幸治 (Tb) / 山田 賢吾 (Tp) / 中村 倫子 (Dr)

※切: 活動日の5日前まで

【早島町】 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 (運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

自治体名	早島町
担当課名	早島町教育委員会学校教育課
電話番号	086-483-2211
メールアドレス	gakko@town.hayashima.lg.jp

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	12764人	部活動数	9部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
公立中学校生徒数	378人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定しない

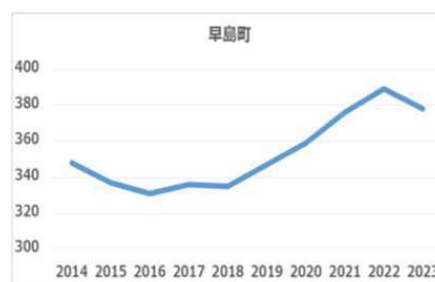
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

早島町の中学校は、1校であり、9の運動部活動を配置している。生徒数は378人で、1学年は4クラス規模の学校であり、生徒数の推移は、年々増加傾向にある。早島町では、部活動指導員を会計年度任用職員として採用し、休日の部活動を中心に指導している。

指導員配置当初は、教育的指導に重点を置く部活動顧問と専門性を持った技術指導を行う指導員との価値観の相違が見受けられたが、指導員として長年携わる中で、顧問と指導員が連絡を密に取り合い、情報や指導法、価値観を共有することで、教育的価値の理解が進み、現在では安心して部活動を任せることができる存在となってきた。

しかし、現在、9部活中8部活に指導員を配置できているが、平成29年以降、最初に配属された指導員が現在まで継続して引き受けている状況は、9部活中1部活だけであり、指導員を継続的に配置していくことが課題である。また、指導員を雇用しても年度途中で職を辞することもあるなど、今の体制では地域移行に向けて、継続して行うことは難しい。

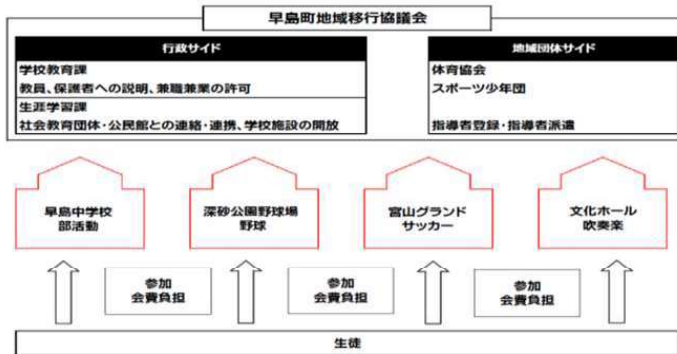
部活動指導員のみでの指導や引率等も行っている部活動もあるが、総合型地域スポーツクラブの創設や業者との連携など、様々な視点をもとに進めていきたいと考えている。また、それに伴って、兼職兼業や施設開放、保護者負担金等、様々なことを整備していく必要がある。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会（学校教育課）**
 教員・保護者への説明
 教職員の兼職兼業の許可、
 指導員の配置や指導者講習会の実施

● **教育委員会（生涯学習課）**
 社会教育団体・公民館との連絡・連携
 学校施設の開放
 総合型スポーツクラブの創設
 町内スポーツ施設の管理運営

年間の事業スケジュール

時期	計画事項	備考
4月	指導員派遣、地域指導員による休日部活動指導開始（保護者への説明）	
5月	スポーツ少年団指導者連絡協議会（部活動の地域移行についての説明）	
10月	スポーツ少年団指導者連絡協議会（部活動の地域移行についての説明）	
11月	来年度に向けた地域人材の確保・費用負担の在り方について	
12月	部活動指導者講習会開催	
1月	地域移行に向けての協議開始	
2月	事業検証（最終報告）	
3月	事業報告提出完了	

3

2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・運営団体・実施主体の運営体制を検討する。
- ・持続可能な運営ができる組織体制の整備を生涯学習課と連携して行う。
- ・総合型地域スポーツクラブの創設を検討する。

取組の成果

・当初計画では、今年度中に部活動の地域移行の協議を開始し、運営体制を整備していく予定であったが、年度途中（8月）に町長選挙があり、その選挙で町長が変わるなど、部活動の地域移行の方針について再度検討する必要があったため、今年度の実施は難しい状況となった。町長との協議も終えて方針も決まり、1月に地域移行に向けての運営体制の検討を始めることができた。

特に工夫した事項

・昨年度までは、学校教育課を中心に部活動の地域移行の検討を進めてきていたが、今年度から生涯学習課と連携を深め、部活動の地域移行に関して協議を進め、早島町の課題を共有するとともに、今後の方針について検討することができた。

・継続的な運営体制とするために、早島町の社会体育施設の指定管理化に併せて、指定管理者に総合型地域スポーツクラブの運営を委託し、その中で部活動の地域移行の受け皿づくりが出来るよう、具体的な検討・協議を行っている。

今後の課題と対応方針

・運営団体・実施主体の整備を行うにあたって、教員の兼職兼業や学校施設の開放、保護者負担金等、様々なことを整備していく予定であったが、上記の理由で整備が進んでいない。来年度中に一つずつ課題を解決していきながら、再来年度の実施に向けて、体制を整備していきたい。

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・指導者に対して、資質向上のための研修の受講を促進する。
- ・平日・休日ともに指導できる人材を確保する。
- ・週あたりに指導できる時間数を増やすよう、予算を設定する。

取組の成果

- ・指導員に対して、コンプライアンスを中心に研修を実施するとともに、普段の指導において、困っていることや要望等を集約し、より働きやすい環境を整備することができた。
- ・専門的指導を行える指導員が、すべての生徒が参加できるよう、教育的指導を意識した取り組みを行うことができた。
- ・9つの運動部活動に対して、8人の指導員を配置し、平日・休日ともに指導できる指導員が5人に増加した。

特に工夫した事項

- ・現在、中学校の教員が中心となって部活動を運営しているが、地域移行に向けて、指導員が中心となって活動できる指導体制を整備することを目指して取り組んだ。指導員の指導年数も積み重なっていき、教員側への理解も深まり、現在2～4部活において、指導員を中心とした活動になってきている。

今後の課題と対応方針

- ・現在週当たり7時間で設定しているが、平日と休日の一体型の移行に向けて、次年度は週当たり12時間で設定し、平日・休日ともに、指導員が中心となって活動できる体制を整備していくとともに、今後も、指導員を中心とした活動をする部活動を増やすよう取り組みを進めていきたい。

5

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

1. ファジアーノからの「負担増」の申し出について

(1) 負担増とは
当該等目を受ける際に負担を伴う一定の条件が付けられ、町がその条件や義務を履行しない場合は解除されるようなものを指す。

(2) 負担の内容
①富山グラウンド内サッカーコート的人工芝設置とクラブハウス建設
②上記に係る工事一式

(3) 今回の「負担」とは
ファジアーノによる社会体育施設の指定管理20年間

(4) 先行事例
大阪府吹田市「市立豊田サッカースタジアム」指定管理48年間
大阪府大阪市「阪スタジアム」指定管理30年間

2. ファジアーノが目指すもの

(1) 富山県内のサッカー環境（特に芝生グラウンド）の整備・向上
①サッカーグラウンド（芝・人工芝）の数は、土すか18面、全国43位タイ。一人当たりの面積9.3㎡。
②サッカーが盛んな静岡県（人口規模は富山県の約2倍）は、サッカーグラウンド（芝・人工芝）122面。
(2) ジュニア育成

3. 早島町にとってのメリット

(1) 指定管理者に対して業務仕様を定め、予算の範囲内で社会体育施設の施設管理や地域の活性化につながる事業を行わせることができる。
①総合型地域スポーツクラブの設置・運営一任により良いスポーツ環境の提供
②部活動の増進材の受け皿一任により効率よく少子化を見越したスポーツ環境の提供
③社会体育施設の年間稼働日数最大一現在約60日ある休業日を年末年始（6日間）程度に。
(2) 民間の資金で公の施設（芝山グラウンド）をアップグレードできる。

4. 早島町にとってのデメリット

(1) 利用者が増加することで、利用希望の発生する可能性があること。
①ファジアーノによるクラブハウス・サッカースタジアムを新設し、利用者に利用・観戦権利
(2) 人工芝のライフサイクルコスト
①およそ10年毎に8,000万円程度必要

5. 指定管理者の業務の範囲・業務仕様（骨子）

(1) 社会体育施設の維持管理
(2) 利用申請・予約受付、利用料金収受、観の受け渡し等
(3) 利用者の調整（早島町の従来利用者による新しい不利が生じないこと）
(4) 総合型地域スポーツクラブの設置・運営
⑤ 部活動の増進材の受け皿（自由体育施設）
(6) 地域活性化につながる各種自主事業

6. 事業費（指定管理料）

(1) 直営で行う場合の支出から収入を差し引いたものを想定
①支出
体育施設費（生員学習課）
部活動増進材・指導員（学校教育課）
部活動管理（建設課）
地域活性化事業（例：マラソン大会、町民運動会、花ごぼしポンなど）
総合型地域スポーツクラブ（新規a）
②収入
体育施設使用料

7. ただし別途費用も必要

(1) 社会体育施設の老朽化対応など
①夜間照明（水銀灯→LEDへ）
②防犯フェンス・ネット等
③人工芝のライフサイクルコスト（ファジアーノ側と負担割合の協議必要）
④利用料金減免分の補填

8. 施設使用料（利用料金）の見直しが必要

近隣からの利用料金を設定し、効果的な自主事業実施と併せて収益性を高め、良好な施設管理を維持する好循環を目指す。その上で、減免規定も見直し、町内の子どもや高齢者の利用には配慮しつつ、メリハリの効いた料金体系をつくる。

9. なぜ指定管理者を公募しないのか

富山グラウンドの芝生化、クラブハウス建設と民設民営のフットサッカースタジアムパッケージにした提案は、ファジアーノ独自のものであり、これを公表し他の事業者を公募することは、知財権侵害の侵害にあたると思われるため。

10. 主な利用者（サッカー部少年団・早島中学校）への説明

(1) サッカー部少年団……サッカーをする子供たちにとって芝生化は夢のある話であり少年団としては賛成
(2) 早島中学校……中学校として異論なく町に賛同

11. 消防団の活動場所の確保にむけて

(1) 消防団活動（訓練・大会）が人工芝に及ぼす影響は、現時点で不明
(2) 消防団を新たな活動場所にしてはどうか

12. 今後のスケジュール

資料No.13 全員協議会資料
(令和5年11月28日)

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【指導員による活動場面・剣道】



【指導員による活動場面・卓球】



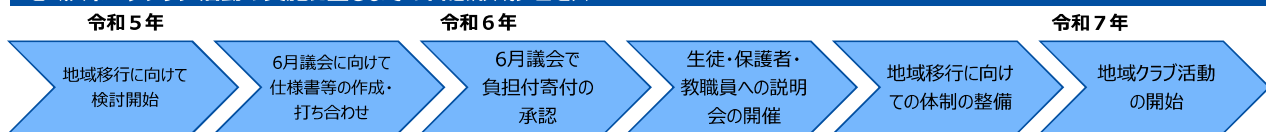
【指導員による活動場面・女子バスケットボール】



【指導員による活動場面・野球】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●令和4年度から、早島町教育委員会が主体となって、地域移行に向けての検討を開始した。

●ファジアーノ岡山から、早島町宮山グランド・サッカーコート芝生化とクラブハウス建設についての負担付寄付の申出があった。

●令和5年8月に町長選挙があり、町長が交代するにあたって、改めて、地域移行に向けて、新たに方針を定める必要があった。

●町の社会体育施設の指定管理に併せて、指定管理者に総合型地域スポーツクラブの運営を委託し、その中で部活動の地域移行の受け皿づくりが出来るよう検討・協議を開始し、6月議会の承認に向けて仕様書を作成する。

●6月議会でファジアーノ岡山からの負担付寄付の仕様書について、承認されたら、地域移行に向けて、協議会を設置する。

●生徒・保護者・教職員・関係者等への説明会を実施し、早島町における地域移行に向けて、地域や関係者の理解を深めていく。

●教員の兼職兼業や学校施設の開放、保護者負担金等の体制の整備を行う。

●令和6年度後半～令和7年度中に、地域クラブ活動を開始する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

R6年度 早島町地域移行体制イメージ図(素案)

